

トハ余ノ希望スル所ナリ

百七十八

監獄ノ建築法ヲシテ別棟ノ長屋風ニスヘキヤ或ハ十字六翼扇面形ニナスヘキヤハ議論ノアル所ナリ東京集治監及石川島監獄改築ニ關シ種々ナル論議アリタリ其ノ得失論ハ新聞紙上ニアルカ故ニ諸君ハ既ニ見聞シタルナラン如何ナル形ハ最モ取締ニ適スルヤ經費ヲ節減シ得ルヤ空氣ノ流通日光ノ映射敷地ノ寡少等ヲ講究スルハ最モ必要ナリトス一々歐風ヲ模範トナスニ非サルモ早開ノ國ハ幾多ノ經驗ヲ積ミタル者ナルカ故ニ其ノ處理上ニ於テ便宜ナリト認ムルモノハ之ヲ採用スルニ於テ何ノ不可カ之ヲラン歐國ト雖州或ハ時代ニ由リ異ナル所アルモ現今探ル所ノ監獄ハ丁字形十字形ヲ基トシ或ハ五翼形ナルモノア

リ或ハ六翼形ナルモノアリ然レトモ丁字形十字形ハ最モ取締ニ適シ巡視巡察ニモ便宜ナルヲ以テ歐洲諸國モ漸次此ノ二形ニ一定スルノ形況アリ

丁字形十字形空氣ノ流通日光ノ映射ニ由リ多少ノ相違アラソモ日本ノ慣習ヨリ之ヲ論スレハ長屋風可ナリトノ説生スヘシ固ヨリ監獄ハ一種ノ建造物ナルカ故ニ必シモ風ハ南北ニ限リテノミ吹クモノニモアラサルヘシ先ツ最モ第一ニ注意ヲ要スルハ檢束ニ在リトス要スルニ將來永遠ノ計策ハ別棟長屋風ヨリ寧ロ丁字形十字形ヲ便宜ナリトス」斯ノ如キ事ヲ云ヘハ必ス諸君ノ腦髓ヨリ排撃セラレ、ナラソ然レトモ余ハ敢テ茲ニ一言セントス日本ハ土地ニ富ミ歐洲各國ニ於ケル都府ノ如ク家屋櫛比シテ立錐ノ餘地ナ

ント云フニアラス加之監獄ヲ建築スル所ハ都府ヨリ多少  
 隔離シタル所ナレハ日本ノ監獄ハ二階造ハ不可ナリトノ  
 論アラソカ將來ノ事ヲ考レハ余ハ二階造ヲ可ト思考ス是  
 又他國ノ經驗アリ日本ニ於テハ宮城集治監鍛冶橋監獄其  
 ノ他一二ニ過キス今普通人民ノ家ニ於ケルモ平造ト二階  
 造ニ於テハ費用ノ點モ異リ敷地モ異レリヨシ一步ヲ讓リ  
 ナ煉化石製ハ建築スル能ハストシ假令ハ監房ハ木造ナル  
 モ外塀ハ煉化石製ナラサルヘカラス然レトモ煉化石製ハ  
 大阪府ノ如ク五六万坪ノ外塀ヲ造ルカ如キハ大費用ヲ要  
 スルモノナルカ故ニ小サク作ラントスル考ヲ有セサルヘ  
 カラス或地方ニ於テ計畫スル如ク一翼ノ長サ七十間ナル  
 モノアリ斯ノ如キハ所謂丁字形十字形ノ主義ヲ失フ者ニ

シテ地所ヲ要シ外塀モ亦長ク要スルカ故ニ成ルヘク小地  
 内ニ監獄ヲ建設スルカ如キ用意ナカルヘカラス二階造ノ  
 監獄ハ別天地ナルニモ拘ラス二階ヨリ都市ヲ瞰下スルコ  
 トヲ得尙昇降不便ニシテ便所ニ於テモ都合悪シトノ説  
 アラソ然レトモ昇降ノ如キハ就役罷役或ハ教誨ニ限ルモ  
 ノニシテ頻繁昇降ヲナスモノニアラス宮城集治監ノ階上  
 ニ昇リシ際當時余モ樓上ヨリ樓外ヲ觀望スルノ恐アルヲ  
 感シタリ然レトモ是ハ二階ノ監房ナレハ窓ノ付ケ方ニ由  
 リ十分之レヲ防クコトヲ得ヘシ便所ニ於テモ之ヲ付ルノ  
 方法ヲ用井レハ強テ爲シ難シト謂フニハアラス畢竟今日  
 ニ於テハ二階造ノ監房ハ容レラレサル議論ナレトモ識者  
 或ハ建築者ニ質スモ皆必將來永遠ノ事ヲ計ラント欲セハ

二階造ヲ可トス如何ニ各國ト雖監獄ハ多ク市街ヨリ離レ  
 タルモノナレトモ少キ土地ニテ少キ費用ヲ以テ建築セン  
 ト欲セハ二階造ニ若クハ無シ是ニ關シバツハ氏ノ意見モア  
 リ大ニ看守者ノ數ヲ減スルコトヲ得將來ノ爲メニ考フレ  
 ハ二階造ハ實ニ採ル可キ建築法ナリトス  
 一囚一房即分房制ハ必可ナラン然レトモ亦十分ニ考究ヲ  
 要セサルヘカラス最モ多額ノ費用ヲ要スルカ故ニ假令ハ  
 將來永遠ノ爲メト雖之ヲ行フ能ハサルナラン或ハ行フコ  
 トヲ得ルモ全監ヲ分房制ニナス必要ナシト信ス分房制ハ  
 他人ト雜居セシメス靜肅ニナシ己ノ良心ト相往來セシム  
 ル主意ヲ有スルモノナリ故ニ犯罪ノ種類性質ニ由テ一囚  
 ヲ一房ニ分房スルハ必要ナルモ或ハ三四犯ニ至テハ恐ク

ハ一囚ヲ一房ニ置クモ其ノ効ナカルヘシ所謂私心昏迷ス  
 ルモノニハ必要ナシト謂フヘキナリ故ニ典獄教誨師タル  
 モノハ能ク犯罪ノ性質ヲ顧ミ分房ノ必要ヲ認メタルモノ  
 ニノミ行フヘシ若シ監獄ヲ建築スル場合アラハ必シモ房  
 ノ大小ヲ一定スルニ及ハス或ハ一房一囚ノ制ヲモ作り或  
 ハ三四人一房ニ置クノ制ヲモ採ル可シ然レトモ多囚ヲ雜  
 居セシムルヲ可トスルカ或ハ少囚ノ雜居ヲ可トスルカト  
 問ハ、少囚ノ雜居ノ可ナルハ無論ナリトス少囚ノ雜居一  
 房一囚孰レカ可ナルヤ是犯罪ノ種類ニ依リ或ハ一房一囚  
 可ナラン故ニ從來ノ構造方ニ於テハ全監房ノ大小ヲ同一  
 ニナスモ又犯罪ノ種類ニ依リ多囚ノ房ヲモ要シ少囚或ハ  
 一房一囚ノ制モ妙ナラン今日ニ於テハ從前ノ如ク多囚雜

居房ハ少キカ如シ務テ多囚ヨリモ少囚房ノ制ヲ採ルハ可  
ナルヘシ是等ハ固ヨリ十分將來ノ希望ヲ示スモノニシテ  
煉化石造ノ如キハ容易ニ行レ難カルヘシト雖亦此ノ方針ヲ  
採ラサルヘカラス設シ木製ヲ以テ建築スルトモ今日ノ如  
キ不完全ナル監獄ニテハ到底眞ノ監獄ノ精神ヲ貫ク能ハ  
サルヘシ故ニ建築ノ場合ニ於テハ檢束節減ノ主義ハ最モ  
能ク講究セサルヘカラス監獄ハ或ハ少シク脆弱ニ失スル  
モ周圍ノ外塀ハ成ルヘク嚴重ナラサルヘカラス現今ノ有  
様ハ隻手ヲ以テセハ殆ト倒レントスルカ如キ木柵ヲ以テ  
外塀トナセリ兇惡ナル囚徒ノ眼ヨリ見レハ實ニ嗤笑スヘ  
キモノアラシ以上ニ關シテハ諸君モ十分ニ思慮アル所ナ  
レトモ費用ノ點ニ就テ餘儀ナク監獄ヲシテ十分ナラシム

ル能ハサルモ外塀ハ成ルヘク煉化製ナランコトヲ希望スレ  
事務室ハ何レノ監獄モ皆華美ニ流レタルカ如ク覺ニ監獄  
ノ眼目ハ事務室ニアラスシテ監房ニ在ルカ故ニ監獄ヲ堅  
牢ニ作ルハ必要ナリトス十六年ヨリ二十一年ニ至ルマテ  
ノ監獄建築ヲ見ルニ多クハ事務室ノ位置ハ監獄ヨリ遠カ  
レリ是モ長屋風ナレハ餘儀ナキモ丁字形十字形扇面形六  
方形ノ建築ナレハ事務室看守長看守ノ詰所ハ成ルヘク監  
獄ト近接スルヲ最モ便利ナリトス其ノ他教誨堂炊所病室  
等種々ノ附屬物アルカ故ニ最能ク研究シ病室ハ閑靜ナル  
所ヲ選ヒ女監ハ如何ナル方位ニ設クヘキカハ十分ニ注意  
シ不當ノ位置ヲ避クヘシ

以上ハ其ノ大體ヲ示セシノミ要スルニ監獄構造ハ困難ニ

シテ幾多ノ經驗ヲ積マサレハ容易ニ爲シ能フモノニ非ス  
故ニ其ノ大體ノ模形ハ他日之ヲ諸君ニ示サシ又バツハ氏監  
獄構造上ノ意見モ翻譯シテ參酌ニ供セン監獄構造ハ缺ク  
可ラサル事業ニモ拘ラス其ノ概略ヲ示セシハ凡テ物ノ順  
序トシテ連續セサルノ憾アルカ故ニ其ノ責ヲ塞クニ過キ  
ス詳細ニ至テハ其ノ標準ヲ示サント欲ス監獄ノ位置即監  
獄ハ如何ナル土地ニ設クヘキヤハ監獄ノ建築ヨリモ尙<sub>ホ</sub>根  
本ナルカ故ニ是等ノ點ハ余ノ言ヲ待タス諸君ノ經驗上ニ  
於テ已ニ得ル所ノモノアラシ

奎堂餘睡終

### 奎堂餘唾附錄

#### ○集會及政社法ニ關スル意見

立憲政治ノ下ニ在テハ結社集會ノ自由ヲ尊重セサルヘカ  
ラサルハ言ヲ待タスト雖人文ノ程度未タ社交的自然ノ作  
用ニ依リ其ノ秩序ヲ維持スルニ足ラサルトキハ國家ニ於  
テ之ヲ維持スルニ足ルマケノ法律ヲ立ルハ避クヘカラサル  
ノ情勢ナリトス我帝國憲法ノ集會及結社ノ自由ヲ許スト  
雖其ノ自由ヲ法律ノ範圍内ニ限リタルモノ之カ爲メナリ

#### 集會及政社法ノ必要

是ニ於テカ生ス我國曩ニ集會條例ヲ制定シ昨明治二十三  
年七月改正ヲ加ヘ集會及政社法トナシ以テ其ノ大體ニ於  
テハ立憲政治ノ精神ニ副テ自由ノ權域ヲ擴張シ事實ノ必

○附錄 集會及政社法ニ關スル意見

要カ許サ、ル點ニ於テハ猶<sup>ホ</sup>幾分ノ制限ヲ存シ理論ニ偏セ  
 ス實際ニ流レヌ兩々相伴テ其ノ宜キヲ得セシメザリ然ル  
 ニ今ヤ又集會及政社法改正案ハ衆議院ニ於テ可決セラレ  
 ザリ然トモ衆議院ノ議決案ハ第一結社集會ハ人類天賦ノ  
 自由ナリト言フ理論ノ一邊ニ偏シテ社會現時ノ情勢ト人  
 文ノ程度奈何ヲ較ミ顧ミサル者ノ如シ第二議決案ハ專ラ  
 少數政談家ノ利便ニ着目シテ國家全體ノ安寧秩序ニ注意  
 スルノ薄キカ如ク感セラレ、モノナキニアラス之ヲ約言  
 スレハ議決案ハ個人的保護ニ厚クシテ國家的防護ニ薄キ  
 モノ、如シ第三現行法ハ今ヨリ僅ク九箇月前ノ發布ニ係  
 リ立憲政體ノ天地ニ入ラントスルニ際シ適當ノ改正ヲ加ヘ  
 ザルモノナリ然ルニ發布以來未タ一箇年ヲモ經過セサル

ニ早クモ己ニ之ヲ改正セントスルハ輕クシク法律ヲ變更  
 スルノ惡例ヲ置クノ憂ヒナキニアラス且夫予輩ハ新法案  
 ノ與フル自由ノ區域廣大ニ失スルヲ憾ムトコロナキ能ハ  
 サルナリ網ノ目大ナレハ魚逸スヘク法寬ニ失スレハ亦其  
 ノ弊ニ堪ヘサルヘシ予輩ノ喜フモ憾ムモ共ニ其ノ自由ノ  
 過大ナルニアリ新案ノ律スル所ハ政談集會及政社ニ限リ  
 非政談集會ハ之ヲ不問ニ置ケリ

是自由ヲ與フル其ノ度ヲ超ユルモノニシテ余輩ノ大ニ取  
 ラサル所ナリ蓋現行法ハ政談集會ノ取締ヲ主トシ非政談  
 集會ノ取締ハ成ルヘク之ヲ自由ニ放任スト雖事苟モ公共  
 ノ安寧秩序ニ關スルモノ若クハ名ヲ非政談集會ニ假リテ  
 其ノ實政治ヲ談スルモノニ對シテハ亦之カ取締ヲ忽ニセ

サルナリ然ルニ非政談集會ハ一切之ヲ不問ニ置クトセハ  
 彼ノ神代復古請願ノ名義ヲ以テ社會黨類似ノ結合ヲ組織  
 セントシタルカ如キ小作人同盟シテ地主ニ迫ラントスル  
 ノ集會ヲ爲スカ如キ又宗教ニ關スル集會ナトニ於テハ國  
 ト國トノ關係ヲ惹起スカ如キモノアリ是等不穩ノ集會結  
 合ヲナスモノアルニ當リ新法案ハ何ニ依テ之ヲ處置セン  
 トスルカ新案提出者ハ之ヲ以テ安寧秩序ヲ害スルノ憂ヒ  
 ナシトスルカ新法案ハカ、ル場合ヲ其ノ眼中ニ置カサル  
 ナリ果シテ然ラハ新法案ハ不良ノ徒良民ニ向テ害ヲ加ヘ  
 ントスルモ之ヲ防制スルノ効力ナキモノナリ又現行法ニ  
 依レハ凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコ  
 トヲ得ストノ規定アリ蓋多人數集會セル場所ニ於テハ人

心浮キ立チ動スレハ粗暴ノ舉動ニ出ツルコト往々之アリ  
 現行法ノ此ノ規定ヲ設テ以テ不測ノ危險ヲ防カントスル  
 ハ元ヨリ其ノ當ヲ得タルモノナリ然ルニ新法案ハ單ニ政  
 談集會ニノミ關スルモノナレハ普通ノ集會ニ戎器兇器ヲ  
 携帯シテ會同スルアルモ之ヲ制止スル能ハサルナリ見ヨ  
 名ヲ學術演說等ニ藉リテ其ノ實政談集會ヲナスモノアリ  
 而シテ其ノ會同者中反對主義者ニ向テ暴行ヲ加フルモノ  
 アルハ既往ノ事實ニ徴シテ明ナルニアラスヤ元來警察官  
 ノ政談其ノ他ノ集會ニ監臨スル所以ノモノハ辯士ノ演說  
 或ハ治安ニ妨害アルヤ否ヲ監督スル爲メノミニアラス辯  
 士ト聽衆、聽衆ト聽衆トノ間ニ不穩ノ舉動ナカラシムコトニ  
 注意シ又其ノ注意ハ只場内ニ止マラス場外ヨリ會同ヲ妨



ケントスル者ニマア及ヒ以テ公衆ノ安全ヲ保護セシカ爲  
 メナリ然ルニ今新法案ヲ行テ現行法ヲ廢センカ非政談ノ  
 集會ハ警官ノ臨場ヲ拒ムコトヲ得ヘキナリ論者或ハ之ヲ  
 以テ集會ノ自由ヲ得タリト喜フカナレトモ爭鬪暴舉ノ起  
 ルコトアルヘキ恐テ忘レタルモノナリ即其ノ自由ヲ保護  
 スル所以ヲ忘レタルモノナリ又宗教上ノ事ニ餘リ頓着セ  
 サルハ我邦人ノ氣質ナリト雖近來漸ク宗教ニ熱心ナルノ  
 徒現ハル、ナキニアラス隨テ又之ニ反對ヲ試ムル者亦漸  
 ク多キカ如シ近クハ彼ノ拜影事件ニ關シ演說會ヲ開ケル  
 者アリシニ聽衆ノ喧擾シテ之ヲ妨害シタルカ如キ亦タ一  
 例ナリ此ノ事タルヤ幸ニ一場ノ騷擾ニ過キスシテ止ミタ  
 リト雖今後此ノ如キ事柄ヨリシテ其ノ關係ノ外入ニ及ヒ

逐ニハ外國トノ交渉ヲ惹起スコト強チ之ナキニ限ラサル  
 ヘシサレハ其ノ時ノ事情ニ依リ警官ハ宗教信徒ノ集會ニ  
 モ臨場スルコト治安ヲ維持スルカ爲メニ必要ナルヘシ然  
 ルニ新法案ニ隨テ政談以外ノ集會ニ關係セサルモノトヒ  
 ハ宗教信徒ハ警官ノ保護ヲ受クルコト能ハス爲メニ或ハ  
 意外ノ珍事ヲ生センモ計リ知ルヘカラサルナリ  
 論者或ハ謂ハシ非政談集會ニハ行政官ノ意見ヲ以テ時機  
 ニ應シテ取締ヲ爲スヘシト然レトモコレ專制政治ノ下ニ  
 於テハ行ハレ得ヘキコトナルモ憲法既ニ實施セラレ我國  
 臣民ノ自由及權利ハ法律ニ依ルニアラスンハ拘束セラレ  
 サルノ今日ニ在テハ決シテ行ハルヘキコトナラス今若シ  
 カ、ル場合ニ行政官ノ見込ヲ以テ之ヲ處置スルヲ許サハ

是之ヲシテ法律以外ニ立タシムルモノニシテ唯ニ憲法ノ明文ニ反スルノミナラス立法行政兩權分立ノ精神ニ戾ルモノト謂フヘシ其ノ立憲政治ノ名實ヲ毀傷スル不祥ノ論タルヤ明ナリ新案提出者ニシテ果シテ論者ト説ヲ同フスルモノナラハ一方ニ自由ヲ與ヘ他方ニ壓制ヲ認許スルモノナリ即チ與ヘタル自由ノ裏面ハ壓制ナリト推論セサルヘカラス新案提出者ノ意蓋斯クノ如クナラサルヘシ予輩ハ只之ヲ知ルニ苦シム聞ク所ニ依レハ此ノ新法案ノ外ニ普通集會ニ關スル取締ノ法案ヲ衆議院ニ提出セル者アリト然ラハ則チ衆議院議員諸氏ト雖又一切普通ノ集會ヲ不問ニ置クモノニアラサルヲ知ルヘキナリ諸氏亦非政談集會モ之カ取締ヲナサハルヘカラサルノ必要ヲ知レルモノナリ果

シテ然ラハ何故ニ法ヲ分テ政談ニ關スルモノト否ラサルモノトノ二トナスヤ兩者ノ性質木ト竹トノ如ク相異ナルモノナラハ之ヲ二ツニ分ツコト止ムヲ得サル次第ナレトモ兩者ノ性質決シテ此ノ如ク相距ルモノニアラス故ニ予輩ハ現行法ノ如ク一法ノ下ニ兩者ヲ立タシムルノ簡ニシテ且ツ便ナルヲ知ルモノナリ次ニ新案者ニ質サント欲スルハ議員選舉準備ノ爲メニ開ク集會届出ノ件ナリ新法案第二條ニ於テ投票ノ日ヨリ五十日間ハ届出ヲ要セサル旨規定シアレトモコレ不可ナリ蓋曩ニ衆議院議員選舉ノ際ハ尙舊條例ノ行ハレタル時ニシテ三日前ニ届出テサルヘカラサリシヲ以テ或ハ不便ヲ感シタル者モアルヘク爲メニ右ノ規定ヲ設クルノ必要ヲ感シタルモノナルヤモ知ル

○附録 集會及政社ニ關スル意見

ヘカラスト雖既ニ新法案ニ於テ二十四時間前ニ届出ヲ改  
 メタル以上ハ選舉準備ノ集會ヲ届出ソルトモ格別不便ヲ  
 見ルコトナシト信ス且議員選舉ノ時ハ黨派ノ競争激シク  
 言論ヲ以テ互ニ勝敗ヲ争フノミナラス其ノ甚シキニ至テ  
 ハ腕力ヲ用井ルニ至ルコト既往ノ事實之ヲ證セリサレハ  
 選舉準備ノ爲メニ開ク集會ノ如キハ最モ取締ヲ嚴ニセサ  
 ルヘカラスト隨テ他ノ集會ヨリモ其ノ届出ヲ必要トスヘキ  
 ナリ尤モ其ノ時日場所ノ如キ等探知シ得ヘシト雖既ニ其  
 ノ取締ノ必要アリ何ソ法ニ規定スルヲ惜ムヘケンヤ畢竟  
 警察ノ届出ヲ要スルハ其ノ集會ノ安穩ヲ得セシメンカ爲  
 メノミナリ

集合スル人ノ制限如何

ニアリ現行法第四條ニ於テハ「現役及召集中ニ係ル豫備後  
 備ノ陸海軍々人警察官々立公立私立學校ノ教員學生々徒  
 未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス」ト規定  
 セシニ新法案第五條ニ於テハ「現役及召集中ノ豫備後備ノ  
 陸海軍々人警察官ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス」トナ  
 セリ兩者ノ異ナル所ハ官立公立私立學校ノ教員學生生徒  
 未成年者及女子ノ政談集會ニ會同スルヲ得ルト得サルト  
 ニアリ抑々未成年者及學生生徒ハ身心ノ發育未々十分ナ  
 ラサルヲ以テ事物ニ感激スルコト鋭敏ナリト雖眞個ニ是  
 非ヲ辨別シ利害ヲ判斷スルコト能ハサルナリ故ニ彼等ノ  
 思想ハ或ハ之レヲ右スヘク或ハ之レヲ左スヘシ只外部ノ  
 刺戟如何ニ依テ其ノ運行ヲナスノミ今之ヲシテ人ノ感情

ニ訴フル政事の演説ヲ聽カシメテ其ノ前途ハ實ニ測リ  
 知ルヘカラス或ハ謬説ヲ輕信シ若クハ橫議ニ誤ラレ遂ニ  
 完全ノ修學ヲ爲ス能ハスシテ輕躁浮佻ノ徒ト伍ヲ爲スニ  
 至ラン予輩ハ世ノ所謂壯士ナルモノ日ニ月ニ其ノ數ヲ加  
 フルノ跡ヲ見眞ニ憂慮ニ堪ヘサルナリ新法案ハ何カ故ニ  
 未タ獨立ノ思想アラサル是等儕輩ヲシテ政談集會ニ會同  
 セシメント欲スルカ予輩ハ之ヲ解スル能ハサルナリ然レ  
 トモ或ハ日ハン大學學生ノ如キハ年齡思想ノ長スルノミ  
 ナラス利害得失ヲ鑒別スルノ知能ニ至テハ却テ普通ノ人  
 ニ超ユルモノアラン特ニ政治學ヲ修ムル學生ノ如キハ寧  
 ロ政談ヲ聽カシムルコト其ノ修學ノ助トナラサルヤト論  
 者ノ說一理アルニ似タリト雖學理ノ蘊奧ヲ極メント欲ス

ル學生ヲ政談場ニ引込ミ之ヲシテ他國セシムルカ如キハ  
 決シテ教育ノ本旨ニ適合スルモノト云フヲ得ス若シ其ノ  
 聽ク所ノ政談ニシテ學生ノ知識ヨリ劣レルモノナラハ之  
 ヲ聽クモ益ナク又學生ノ知識ヨリ優レルモノナラハ爲メ  
 ニ其ノ思想ヲ左右シテ其ノ獨立ヲ妨クルノ恐レアルヘシ  
 且學生々徒ヲ誘掖シテ他日獨立ノ人物ヲ養成スルノ責ニ  
 任スル教員ニシテ好シテ政談ヲ聽キ其ノ僻スル所ノ思想  
 ヲ少年ノ腦裏ニ注入セハ或ハ其ノ前途ヲ誤ルノ不幸ナキ  
 ヲ保テス蓋公正不偏ナルヘキ教員ノ政談場ニ臨ムハ間接  
 ニ學生生徒ノ政談ヲ聽クニ等シカルヘシ  
 又女子ヲシテ政談集會ニ會同スルヲ得セシムルニ至ラハ  
 其弊害實ニ鮮少ナラサルヘシ元來婦女ハ兒童ヲ養育シ家

政ヲ整理シ以テ其ノ夫ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムルノ任ヲ負ヘルモノナルニ政界ニ狂奔シ教育ヲ顧ミス家政ヲ修メス夫ト主義ノ異同ヲ論シ意見ノ高下ヲ争ハ、爲メニ家内ニ風波ヲ生シ惡習ヲ助長スルニ至ルヘシ一家ハ素ト一國ノ基本ナリ豈漫然之ヲ看過スルヲ得ンヤ

第三新法案提起者ニ質サント欲スルハ

集會スル場所ノ制限如何

ニアリ現行法ハ政談集會ヲ屋外ニ於テスルヲ禁シ新法案ハ之ヲ許セリ予輩ハ現行法ノ規定ニ同意ヲ表シ屋外ノ政談集會ハ之ヲ許スヘカラスト信スルモノナリ屋外ノ集會ハ聽衆或ハ來リ或ハ去リ聚散常ナキヲ以テ取締ノ區域廣ク法律上會同ヲ禁セラレタルモノト來ルアルモ亦之ヲ制

止スルニ由ナク且カ、ル集會ハ多クハ示威ノ目的ニ出テ敵黨ヲ威嚇セントスルモノナレハ反對主義者之ニ抗セント欲シ鷹到シ來リテ紛争ヲ惹起スルコトアリ甚シキニ至テハ暴動ノ媒介トナリ之ヲ取締ルニ兵力ヲ假ルノ不幸ニ際會スルハ泰西諸國ノ歴史ニ徴シテ明ナリサレハ集會ノ自由ナル佛國ノ如キニ於テスラ『墻壁及屋根アル場所ニアラザレハ集會ヲナスヘカラス』ト法律ニ明文ヲ掲ケアルモノ之カ爲メナリ

新法案提出者ニ質サント欲スル第四ノ點ハ

議會開會中集會ノ制限如何

ニアリ現行法ニ依レハ『帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ

爲スコトヲ得ス』トアリ而シテ新法案ハ全ク之ヲ削除シテ  
 リ議員ハ獨立ナラサルヘカラス他人決シテ之ヲ掣肘スヘ  
 カラス議員ハ其ノ信スル所ニ於テ國家ノ利益ヲ計リ良心  
 ノ命令ニ從テ己ノ説ヲ主張シ他ノ説ヲ贊成シ毫モ他ヲ顧  
 ルヘカラスト雖人心ノ弱點或ハ他ノ強迫ヲ蒙リテ己ノ説  
 チ屈シ心ニモアラヌ議ニ同スルコト之ナキヲ保セス然ル  
 ニ或黨派其ノ意見ヲシテ議場ニ勝ヲ制セシメントスルノ  
 餘リ議院ニ近キ邊リニ於テ多數ノ集會ヲ催シ示威運動ヲ  
 ナシ以テ院內ノ同黨派ニ聲援ヲナシ反對派ニ對シテ恐嚇  
 ヲ試ムルコトアリトセンカ其ノ効果ノ如何ハ暫ク措キ是  
 議員ノ獨立自由ヲ害スルノ甚シキモノト謂フヘシ若シ又  
 議員タル人々何レモ剛直ニシテ毅然トシテ自説ト生死ヲ

共ニスルカ如キモノナリトスルモ帝國議會ハ我國民ノ意  
 思ヲ代表スル所ニシテ天下耳目ノ集點ナリ誰カ帝國議會  
 ノ安穩ヲ禱ラサルモノアラソ誰カ議員諸氏ノ無事ヲ望マ  
 サルモノアラソヤサレハ議員及社會民衆ノ安心ヲ求メン  
 爲メ右ノ規定ヲ存シ置クノ必要ヲ見ルヘシ予輩カ新法案  
 ノ削除説ニ反對スルハ之ヲ以テナリ

新法案提出者ニ質サント欲スル第五ノ點ハ

#### 法ノ制裁如何

ニアリ新法案ハ一切自由刑(法案ニ所謂體刑)ヲ廢シテ法ノ  
 制裁ヲ獨リ罰金ニ止メタリト雖唯一ノ本刑トシテ之ヲ科  
 スルハ概テ過失犯ノ場合ニ限り安寧秩序ヲ妨害スルコト大  
 ナルノ事件若クハ惡意ニ出ツルノ所爲ヲ罰スルニ單ニ罰

金ノミヲ以テスルハ決シテ正鵠ヲ得タリト云フヘカラス  
 殊ニ故サヲニ政社ニ加入スルヲ禁セラレタル者ヲ誘引シ  
 テ加入セシメ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認メラレ内務大  
 臣ヨリ禁止ヲ命セラレタルニモ拘ラス仍結社スルモノニ  
 向テモ處スルニ體刑ヲ以テセサルカ如キハ寛優モ亦甚シ  
 ト謂フヘシ予輩ハ犯法者ノ陸續輩出スルニ至ラノコトヲ  
 恐ル論者或ハ白ク政治ニ關係シタル犯罪ハ之ヲ處スルニ  
 彼ノ強盜竊盜若クハ強姦罪ナト、同一ニスヘキニアラス  
 ト予輩モ亦感テ同フス面シテ法律ノ眼モ亦之ヲ同視セス  
 シテ禁錮禁獄懲役ヲ輕重ノ二種ニ區別シ一ハ定役ニ服シ  
 他ハ定役ニ服セサルノ規定トナセリ論者ハ奚ソ此ニ留意  
 セサル若シ論者ノ意ニ從ヒ政治ニ關係シタル罪犯ニ加フ

ルニ體刑ヲ以テスヘカラストセハ國事犯ノ如キモノニ對  
 シテハ如何ニカ處分スヘキ新法案ニ體刑ヲ廢シタルハ實  
 ニ予輩ノ取ラサル所ナリ且彼ノ新聞紙條例修正案ヲ一讀  
 スルニ體刑ヲ存セリ新聞紙ト政談ト果シテ如何ナル差異  
 カアル均シク言論上ノ事柄ニシテ之ヲ罰スルニ一ハ輕ク  
 一ハ重ク權衡其ノ宜シキヲ得サルハ何ソヤ論者曰ク一ハ  
 事前ノ取締ニ屬シ一ハ事後ノ處分ニ關スト然レトモ政談  
 集會ニ關スル罪犯豈悉ク事前ニ出テンヤ特ニ政社ニ關ス  
 ル犯罪ノ如キハ事後ニ關スルモノ多シトス  
 以上ハ予輩ヲ新法案ニ對スル意見ノ大要ナリ之ヲ要スル  
 ニ新法案ハ放任ニ過キ取締ノ上ニ至テハ餘リ頓着セサル  
 モノ、如ク而シテ取締ノ自由ヲ保護スルモノタルヲ忘レ

○節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ  
舊ニ復スヘキノ意見

今回政費節減ニ因テ將來ニ生スル餘裕六百五十万圓ノ處  
分如何ハ實ニ目下ノ一大問題ナリトス之ヲ以テ地租五厘  
ヲ減センカ是唯土地所有者就中豪農ニ向テ一時ノ歡心ヲ  
買フニ過キス小作人等ニ至テハ纔ニ濁醪一杯ノ醉ヲ買フ  
テ一睡ノ欲ヲ充タスニ價ヒスルノミ況ンヤ一旦輕減シタ  
ル地租ハ他日國家ノ需要ヲ増スノ必要ニ迫ルコトアルモ  
復容易ニ加重スヘカラサルノ勢アルニ於テチヤ故ニ之ヲ  
以テ減租ニ供セントスルハ未タ以テ適當ノ方案ト爲スヘ  
カラス熟々之カ方法ヲ考フルニ府縣監獄費及府縣監獄建  
築修繕費其ノ他地方稅支辨ニ屬スル治水堤防費等素ト國

○附錄 節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ舊ニ復スヘキノ意見 二百七



庫ニ於テ支辨スヘキモノニシテ一時財政ノ都合ニ因テ地方ノ負擔ニ移シタルモノヲ國庫ノ支辨ニ復シ之ニ因テ一般人民ノ負擔ヲ輕クスルノ適當ナルニ若カス今ヤ地方稅負擔ノ重キニ苦ムハ各地方一般ノ狀況ナルカ如シ而シテ政費節減ニ因テ人民ノ負擔ヲ輕クセント欲セハ之ヲ國稅ノ輕減ニ用井ルモ地方稅ノ輕減ニ用井ルモ其ノ歸スル所ハ一ナリ然レトモ之ヲ以テ單ニ地租輕減ニ用井ルトキハ徒ニ土地所有者就中重ニ豪農ノ負擔ヲ輕減スルニ止マリ其ノ及フ所ノ澤ハ一方ニ偏重シテ廣ク及ハサルノ患アリ今若シ之ヲ以テ地方稅ヲ輕減センカ夫ノ地方稅ノ地租割戸數割等亦均シク重ニ土地所有者ノ負擔ニ歸スルモノナリト雖戸數割ノ如キニ至テハ小農其ノ他小作人等ニ於テ

最其ノ負擔ニ苦ムノ情況アリ且細カニ各府縣ニ就テ觀察スレハ皆ニ戸數割ノミナラス又地方營業稅ノ苛重ニ苦ムモノアリ各地方其ノ情況同シカラス是ノ故ニ政費節減ニ因テ得タル金額ヲ以テ地方稅ノ負擔ヲ輕減シ而シテ各地ニ於テ實際人民ノ負擔ヲ輕減スルニ至テハ各地ノ情況ニ應シ或ハ地租割及戸數割ヲ輕減シ又ハ營業稅ノ幾分ヲモ輕減スル等其ノ輕減ノ方法ニ至テハ各府縣會ノ議決ニ任スルノ適實ニシテ其ノ宜キヲ得ルニ若カサルナリ此ノ如クスルトキハ其ノ輕減ハ一方ニ偏重ナラスシテ一般ノ人民普ク其ノ澤ニ浴シ皆ニ其ノ方法宜キヲ得ルノミナラス監獄ノ如キハ之ニ因テ改良上大ニ其ノ成效ヲ奏シ得ヘキノ利アリ今監獄費ノ性質上其ノ他ノ諸點ヨリ當然國庫ノ

○附錄 節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ舊ニ復スヘキノ意見 二百九

支辨ニ屬スヘキモノニシテ且遇囚ノ公平ヲ保チ及將來監獄ノ改良ヲ圖ル等ノ點ニ於テ之ヲ國庫支辨ト爲スノ必要ナル所以ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 監獄ノ費用ハ其ノ性質上國費ヲ以テ支辨スヘキモノトス 蓋犯罪ハ國法ニ對スルノ所爲ニシテ犯罪者ヲ拘禁シ刑罰ヲ加フルハ即國權ヲ以テスルモノナリ而シテ監獄ハ犯罪者ヲ拘禁シ刑罰ヲ執行スルノ所ナリトス故ニ監獄ニ要スル所ノ費用ハ國法執行ニ關スル費用即裁判所ノ費用等ト同一途ニ出ツヘキハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ現ニ集治監ニ入ルヘキ徒流刑囚ノ費用ハ悉ク國費支辨ナルニアラスヤ回顧スレハ明治十三年マテハ監獄ノ費用ハ全ク國庫ノ支辨タリシカ十三三年十一月

五日ノ布告第四十八號ニ因リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中ニ新ニ府縣監獄ノ費用ヲ加ヘラレタリ而シテ其ノ之ヲ地方稅ノ支辨ニ移サレタル主意ハ國庫ノ支出ヲ減シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加セントスルニアリ畢竟會計整理上ノ必要ヨリ一時已ムヲ得サルノ策ニ出テタルニ過キサルモノ、如シ該布告ノ冒頭ニモ歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加シ云々トアルニ由リテ知ルヘシ以來年所ヲ經ルノ久キ遂ニ世人ヲシテ府縣監獄費ノ地方稅タルヲ怪ムコトナカラシムルニ至リタルノミ

第二 府縣監獄費等ヲ地方稅ノ支辨メラシムルハ大ニ在監人ノ拘禁上ニ公平ヲ失スルノ弊アリ 此ノ一段ニ至テハ特ニ痛言セサルヲ得ス何トナレハ均シク國禁ヲ

○附錄 縮減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ舊ニ復スヘキノ意見 二百十一

犯シ同一ノ刑法ニ依リ同一ノ刑ニ處セラレタル囚人ニシテ其ノ縣ヲ異ニシ其ノ監ヲ同クセサルカ爲メ其ノ衣食住ニ於テ非常ノ懸隔アリ是最平ヲ失スルモノニアラスヤ斯ル不公平ヲ來スノ弊ハ地方税ノ支辨ヲ轉シテ國庫支辨ト爲サ、ル間ハ全ク之ヲ一掃スルコト能ハサルヘシ今試ニ二三ノ例ヲ擧ケンニ或地方ニ於テハ囚人被服費ノ議決額稍裕ナルカ爲メ常ニ囚人ニ暖衣ヲ貸與スルコトヲ得ルモ他ノ地方ニ於テハ其ノ額ヲ極メテ切り詰メタルヨリ澣濯補綴シテ漸ク其ノ用ニ充テ辛シテ塞ヲ凌クコトヲ得メリト又或縣ニ於テハ在監人一日ノ菜代金八厘ト議決セシニ或縣ニ於テハ僅ニ三厘何毛ニ議決シタルカ如キ是ナリ尤モ菜代ノ如キハ其ノ地方地方

ニ於テ物價ノ高低アレハ強テ金額ヲ準トシテ立論スヘカラサレトモ地方議會ノ議決ニ依リ彼此厚薄ノ別アルハ疑フヘカラサル事實ナリトス又在監人ノ拘禁場タル監房ニ至テハ甲地乙地ノ間殆ト言フヘカラサル大差アリ或地方ニ於テハ衛生上間然スルトコロナキ新築ノ監房ニ三四若クハ四囚ヲ拘禁シ或地方ニ於テハ封建時代ノ米倉ニ少シク補修ヲ加ヘタル幽暗ナル一倉内ニ七八十囚ヲ集禁セリ其ノ待遇上ニ於テ斯ル不公平アルハ素ト地方議會ニ於テ區々ノ議決ヲ爲スニ由ルモノナレハ其ノ費用ヲ地方税ニ仰ク間ハ到底之ヲ救フコトヲ得サルヘシ然レトモ翻テ刑ノ執行ハ國法ノ執行ナルヲ思ハ、此ノ如キ不公平ノ待遇ハ豈同一ノ犯罪者ヲ遇スルノ

○附錄 節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ審ニ復スヘキノ意見 二百十三

道ナラシヤ豈刑ノ公平ヲ保ツノ法ナラシヤ

第三 或地方ニ過分ノ監獄費ヲ負擔セシム 今日ノ如ク甲地ノ者罪ヲ乙地ニ犯シ又乙地ニ捕縛セラレタルノ故ヲ以テ該地ニ於テ其ノ拘禁ノ費用ヲ負擔スルカ如キニ至テハ乙地ハ犯罪ノ爲メ直接若クハ間接ニ損害ヲ被リタル上ニ其ノ就捕地タルノ故ヲ以テ尙該犯繫獄ノ費用ヲモ負擔セサルヲ得ス又甲地ノ者乙地ニ於テ罪ヲ犯シ逃レテ丙地ニ入ルトキハ丙地ヲシテ其ノ負擔ニ任セサルヲ得サラシムルハ交通便利ノ地ヲシテ過分ノ監獄費ヲ負擔セシムルモノトス於是乎府縣監獄ノ費用ヲ地方負擔ト爲スノ制度ハ公平ヲ得タルモノニアラスト云フ者アルモ吾人ハ之ヲ辨スルノ辭ナキヲ如何セン

第四 冗費節減繁文省略ノ旨趣ニ反ス 比年犯罪人中控訴ヲ爲スモノ頗ル多シ然ルニ此ノ輩ハ皆之ヲ控訴院所在地ノ監獄ニ護送シ其ノ拘禁中ノ費用ハ地方稅支辨ナルカ爲メ出發地方ヨリ之ヲ支辨セサルヲ得ス而シテ其ノ支拂ニ誤謬ナカラシムコトヲ欲セハ該犯人ニ係ル裁判ノ模様等ヲ詳悉スルヲ要スルノミナラス該犯人ニシテ或ハ無罪ニ歸シ或ハ他ノ裁判所ニ移サレ或ハ死亡スル等ノ異動ヲ生スルアラハ計算上直チニ變更ヲ來スヘキヲ以テ一々之ヲ知悉スルヲ要ス故ニ之カ爲メ文書ノ往復金圓ノ送付其ノ繁實ニ言フヘカラサルモノアリ隨テ費用ヲ要スルコト決シテ尠少ニアラサルヘシ是皆府縣監獄費ヲ地方稅支辨メラシムルニ由ラサルハナシ

○附錄 節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ旨ニ復スヘキノ意見 二百十五

第五 將來監獄改良上大ニ不可ナルモノアリ 蓋地方  
 稅ヲ以テ地方監獄ノ改良ヲ圖ラントセハ彼ノ佛國ト同  
 一轍ヲ踏ムニ至ラントヲ恐ル佛國ニ於テハ千八百七  
 十五年發付ノ刑事被告人及一年以下ノ短期刑囚ハ凡テ  
 之ヲ一房一人監禁即分房制監獄ニ拘禁スヘキコトヲ制  
 定セリ然ルニ此ノ種ノ在監人ハ悉ク之ヲ地方監獄ニ拘  
 禁シ其ノ費用ハ地方稅ナルヲ以テ政府ハ豫メ地方費負  
 擔額ノ増加ヲ慮リ此ノ法律實施ニ要スル費用ノ幾分ハ  
 國庫費ヲ以テ之ヲ補助スルコト、ナシタルニ地方會議  
 ハ多クハ皆此ノ法律ニ依テ其ノ監獄ヲ新築若クハ改造  
 スルヲ欲セス發令後十二年ヲ經ルモ全國三百八十二ヶ  
 所ノ監獄中此ノ法律ヲ實行シタル所ハ僅ク十四ヶ所ニ

過キス其ノ他ハ依然トシテ舊體ヲ存セルモノアリ是ヲ  
 以テ此ノ貴重ナル法律モ徒ニ紙上ノ空文タルニ止マラ  
 ントス之ニ反シテ英國ニ於テハ多年研究ノ末地方監獄  
 費ヲ地方ノ擔任ニ屬セシムルノ不可ナルヲ悟リ終ニ千  
 八百七十七年發布ノ監獄法令ヲ以テ英國及ウヰールス  
 ニ於ケル地方監獄費ヲ舉テ總テ國庫ノ負擔ト爲シ以テ  
 監獄改良事業ノ實ヲ舉クルコトヲ勉メシニ着キトシテ  
 實効ノ見ルヘキモノアリ例之ハ千八百七十八年乃至八  
 十四年ノ七年間ニ於ケル監獄費ヲ以テ之ヲ千八百七十  
 年乃至七十七年ノ七年間ノ監獄費ニ比スルニ唯其ノ管  
 理費ノミニシテモ凡ソ一千万「マルク」ノ節減ヲ見ルニ至リ  
 タルカ如キ是ナリ且斯ク莫大ノ節減ヲ見ルニモ拘ハラ

○附錄 節減シタル政費ヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支拂ノ舊ニ復スヘキノ意見 二百十七

ス一方ニハ到ル所トシテ新築若クハ改築ノ事業ヲ決行シ諸般ノ獄務駸々トシテ改良進步セサルハナク殊ニ監獄紀律ノ整然トシテ確立スルニ至リタルカ如キ犯罪者ノ著シク遞減シタルカ如キハ改良上著シキ結果ナリトス試ニ共ノ犯罪遞減ノ事例ヲ舉クレハ千八百七十八年ニハ囚員二万〇四百四十二人ナリシニ千八百八十七年ニ至リテハ實ニ一万四千九百六十六人ニ減少スルニ至レリ又獨逸國ニ於テモ全國ノ監獄ヲ悉ク國庫支辨ト爲シテヨリ大ニ其ノ改良ノ實ヲ舉クルヲ得ルニ至レリト云フ是府縣監獄ノ費用ヲ地方稅支辨ト爲ス間ハ將來監獄改良上甚不可ナルモノアリト云フ所以ナリ

監獄費ノ性質上ヨリスルモ遇囚ノ公平ヲ保ツ上ヨリスル

モ地方稅負擔上ヨリスルモ冗費節減上ヨリスルモ又監獄將來ノ改良上ヨリスルモ到底監獄ノ費用ハ悉ク國庫支辨ニ歸セサルヘカラサルコト此ノ如シ而シテ今日マテ府縣監獄ノ費用ヲ地方稅ノ支辨ト爲シ置キタルモノハ前陳ノ如ク蓋會計整理上一時ノ必要ニ出テタルコトナルヘキヲ以テ今回ノ政費節減ニ因リ監獄費ヲ舊ニ復スルハ寔ニ至當ナリト云ハサルヘカラス而シテ府縣監獄費府縣監獄建築修繕費總額十七、十八、十九、二十、二十一、五年間平均額ハ二百九十三万二千三百八十七圓ナリト云ヘハ節減シタル政費即六百五十万圓ヲ以テ之ニ充ツルトキハ綽々猶餘裕アリ犯罪人中再犯以上ノ者ノ多キ我國ノ如キハ萬國殆ト其ノ比類ナシ是人民ノ教育生活ノ低度ナルト其ノ他慈惠的

ノ施設即出獄人保護會社幼年囚懲治場等ノ設ケ十分ナラ  
 サルニ基因スト雖抑々亦監獄ノ檢束教誨等其ノ宜キヲ得  
 サルニ因ラスノハアラス其ノ宜キヲ得サルノ要因ハ第一  
 監獄費等ノ地方稅負擔タルニ職由セスノハアラス以上ノ  
 理由アルヲ以テ府縣監獄ノ費用ヲ國庫支辨ノ舊ニ復シ以  
 テ廣ク地方稅分擔者ハ重荷ヲ輕クシ併セテ監獄ノ改良ニ  
 利便ヲ與ヘ以テ所謂刑ハ刑ナキニ歸センコトヲ圖ルハ豈  
 今日ノ最大急務ナラスヤ

○警視廳ノ存廢ニ關スル意見

衆議院議員ノ多數ハ警視廳ヲ廢シテ其ノ事務ヲハ之ヲ直  
 京府廳ニ移シテ知事ノ總理ニ屬セシムルコト恰各府縣知  
 事ノ其ノ府縣内ノ警察事務ニ於ケルカ如クナラシメント  
 ノ意見ヲ有シ其ノ意見ニ基ケル彼ノ豫算査定案ハ既ニ可  
 決セラレタリ政府ノ同意スルヤ否ハ予輩茲ニ論スルノ必  
 要ナシト雖其ノ存廢如何ニ就テ之ヲ講究スルコトハ實ニ  
 目下ノ一大急務ナリトス何トナレハ之カ存廢ハ國家ノ安  
 寧社會ノ秩序ニ絶大ノ影響ヲ與フルモノナレハナリ  
 警察ノ事務タル一ニシテ止マラス上ハ國家ノ安寧ヲ保護  
 シ社會ノ秩序ヲ維持シ下ハ交通ノ防障ヲ排除シ天然及人  
 爲ノ危害ヲ防滅シ車夫ノ喧嘩ヲ誠諭シ老幼ノ倒仆ヲ扶起

スルニ至ルマテ皆其ノ職掌ノ範圍内ニ屬セルハナシ故ニ  
 其ノ國家及社會ニ必要ナルコトハ何人モ之ヲ非難スルモ  
 ノナク彼ノ警視廳廢止論者ト雖素ヨリ警察事務ヲ度外視  
 スト謂フニアラス唯政費節減ノ爲メニ府廳ヲシテ其ノ事  
 務ヲ兼テシメント謂フニアルノミ而シテ兼任專任何レカ  
 執務ニ敏達ニシテ完全ナルヲ得ルカト問ハ、何人モ其ノ  
 專任ニアルノ優レルニ如カストノコトヲ答フルニ躊躇セ  
 サルヘシサレハ論者ト雖民富ミ國榮エ政費ニ餘裕ヲ與フ  
 ルヲ得ハ未タ必シモ廢廳ヲ唱フルコトナカルヘシ獨リ如  
 何セン政費節減民力休養ノ二句套語トシテ馬丁走卒ノ口  
 ニ上ルノ今日論者ノ其ノ論ヲ主張スル亦止ムヲ得サル所  
 ナルヘシ故ニ之ヲ行フテ得ヘクソハ固ヨリ善シ然リト雖

若シ之ヲ行フテ一方ニハ政費ヲ節減シ得タル代リニ他方  
 ニハ盜賊横行暴徒蜂起水難火災相踵テ來ルカ如キ奇觀ア  
 リトセハ其ノ得失果シテ如何政費ニ定額アレハ假令冗費  
 アリトスルモ知ルヘキノミ禍亂ニ至テハ殆ト量ルヘカラ  
 ス論者深ク茲ニ顧ミル所ナクソハアラス  
 社會未タ發達セス人事政事共ニ複雜多端ナラサルノ時ニ  
 アリテハ之カ取締ノ方法亦簡易ニシテ事足ルト雖人文漸  
 ク開ケ交通ノ便ト共ニ彼我ノ往來繁ク商工ノ事業興リ政  
 海ノ運動活潑ナルニ及テハ之カ取締ノ方法亦隨テ迅速周  
 到ナラサルヘカラス警視廳ノ起ル豈此ノ必要ニ因ルニア  
 ラサルナキヲ得ンヤ予輩左ニ東京警察事務ノ沿革ヲ略記  
 シ以テ警視廳ノ今日アル由來ヲ明ニセシ

○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見



東京ニ於ケル警察事務タル明治三年以前ニ在テハ專ラ兵  
 部省ニ屬シ一部分ハ東京府ノ負擔ニ歸シテモ元來諸  
 藩ノ兵ヲ以テ警邏ノ事ニ當ラシムル等全ク今日ノ所謂警  
 察事務ト趣ヲ異ニシタルヲ以テ予輩茲ニ之ヲ言ハス明治  
 四年ニ至リ始メテ略々警察ノ形體ヲナセリ即同年十月從來  
 ノ府兵局ヲ改メテ取締掛トナシ遷卒三千人ヲ置キ府下ヲ  
 劃シテ六大區トナシ每區ニ取締出張所ヲ設ケ又大區ヲ分  
 テ十六小區トナセリ明治四年正月取締出張所ヲ改メテ大  
 區役所トシ八月東京府遷卒ヲ司法省ニ屬セシメ十月遷卒  
 ヲ改稱シテ巡查トシ大區役所ヲ改メテ大區警視出張所ト  
 稱セリ明治六年一月第一區ニ番人ヲ置キ七月ニ至リ府下  
 ニ全及セリ明治七年一月司法省ノ警保寮ヲ内務省ニ屬シ

東京ニ警視廳ヲ置キ明治八年十月東京府所轄ノ囚獄并ニ  
 懲役場ノ事務ヲ管セシム同年四月警視出張所ヲ改メテ警  
 視分廳ト稱シ巡查屯所ヲ支署ト稱セリ明治十年一月警視  
 廳ヲ廢シ内務省ニ警保局ヲ置キ又各地方ノ出張所ヲ改メ  
 テ警察署ト稱シ屯所ヲ以テ分署ト稱セリ明治十四年一月  
 復ヒ警視廳ヲ置キ正副總監ヲ置ク明治十八年七月警視廳  
 職制ヲ改正シ明治十九年五月警視廳官制ヲ改正ス現行官  
 制ハ即是ナリ  
 以上記スル所ニ由テ之ヲ見レハ始メテ警視廳ナル獨立ノ  
 官衙ヲ置キシハ明治七年ニシテツノ十年ニ至リ一旦廢セ  
 ラレタレトモ十四年ニ至リ復ヒ之ヲ置カサルヲ得サルニ  
 至レリ獨立ナラサレハ迅速ノ運動ヲナス能ハス專任ナラ

○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

サレハ周到ノ取締出來難キヲ以テナリ右ハ時ノ關係ヨリ  
 警視廳ノ今日ニ存スル所以ヲ述ヘタルモノナルカ是ヨリ  
 ハ場處ノ關係ヨリ其ノ必要ナルヤ否ヲ講究セシ  
 社會ノ複雜ニ赴キ國政ノ多端ナルニ隨テ取締ノ迅速周到  
 ナラサルヘカラサルカ如ク人衆ノ多キ事故ノ繁キ土地ハ  
 亦其ノ取締迅速周到ナラサルヘカラス東京ノ地タル帝國  
 ノ一大首府ニシテ宮城ノアル所官衙公署ノアル所兵營學  
 校ノアル所銀行會社ノアル所教會監獄モ此ニアリ劇場遊  
 廊遊觀遊技場モ皆此ニアリ官吏ノ數幾何ソ兵士學生幾千  
 万ソ政黨員此ニ會シ暴士此ニ集リ商賈來リ工業家來リ江  
 戶見物ノ百姓來リ其ノ懷ヲ狙フ偷兒アリ囚徒アリ信徒ア  
 リ日本國中ニアリトアラユル總テノ物總テノ事皆集リテ

コノ一市ノ内ニアリ一市宛然大日本國ノ縮寫圖ナリサレ  
 ハ全國ノ人心皆此ニ傾注シ人民ノ耳目皆此ニ傾向シ志ア  
 ルモノ皆此ニ入り來リ志ナキモノ亦此ニ入り來ル市内ニ  
 徘徊スルモノ必<sup>ス</sup>シモ市民ニアラス人ヲ殺スモノ或ハ甲地  
 方ノ脱獄漢ヌリ人ニ殺サル、モノ乙地方ノ慈善家ヌリ火  
 ヲ放ツモノ又丙縣ノ惡少年ナリ盜ヲナスモノ又丁府ノ惡  
 老婆ナリ善ヲ問ハス惡ヲ論セス平和ノ現象危險ノ舉動喜  
 フヘキ事憂フヘキ事日トシテ發生消長セサルハナシ而シ  
 テ其ノ事柄ノ關係スル所單ニ一市ニ止マラス多クハ皆各  
 地方ト連結ヲ保ツコト其ノ人ニ於テセサレハ其ノ物其ノ  
 事ニ於テス而シテ彼ノ瑣末ナル宿帳ノ検査ヨリ危險ナル  
 國事犯ノ探知ニ至ルマテ苟モ警察上ニ關スルモノハ警視

應必之カ責ニ任ス故ニ警視廳ハ其名コソ府下ノ警察事務ヲ管理スルニ止レ其ノ實ハ殆ト全國人民ノ支配取締ヲ爲スモノナリ事體既ニ斯ノ如ク他府縣ト異ルモノアリ警察ノ組織及其ノ施行ノ方法豈特別ナラサルヲ得ンヤ今警視廳ニ於テ取扱ヒタル犯罪人ノ府縣別ヲ左ニ掲ケ以テ同廳ノ取締ヲ受クルモノ單ニ府下住民ニ止マラサルノ實ヲ證セン(編者依日テク假本ニ書在編輯人ノ際偶々府縣別表ヲ縣別ク表ヲ)

### 在監人有籍者府縣別表

明治三十二年十一月三十一日調

類別	刑事被告人		監獄本署		市谷分署		石川嶋分署		戀治人		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北海道	三										
東京	三〇三	一四	五二		二五二	七三	八四九		一七		一七四六
京都	七		一		六	一					二二

府縣	刑事被告人	監獄本署	市谷分署	石川嶋分署	戀治人	計
大阪	一六					一六
神奈川	三五	二	四			四一
兵庫	三		一			四
長崎	二					二
新潟	二五		八			三三
埼玉	四〇	三	四			四七
群馬	一九	二	三			二四
千葉	四二	二	六			五〇
茨城	三三		二			三五
栃木	一六	二	一			一九
奈良	二					二
三重	一七					一七
愛知	二五	一	二			二八
静岡	一一		一			一二
山梨	一〇		四			一四

○附録 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

計	佐賀	愛媛	徳島	石川	鹿兒島	熊本	大分	高知	香川	福岡	和歌山	山口
七二七				二	一	二		一	一	六	四	一
二六一〇八												
三												
一〇七六		三	二	一〇	三	一		一		一	二	一
一〇二												
一八三八	四	六	三	三〇	一	六	一	五	一	九	六	九
二四												
一												
三七六三	四	九	五	五二	五	九	二	七	二	一七	一三	一一
一三三												

此ノ如ク警視廳ハ殆ト全國人民ノ取締ヲナスノ實アリ且  
 ○附録 警視廳ノ存廢ニ關スル意見  
 二百三十一

廣島	岡山	鳥取	島根	福井	富山	山形	秋田	青森	岩手	宮城	福島	長野	岐阜	滋賀	
三	四	一		五	七	四	五	二	一	六	七	二	四	六	七
	一			一	二	一		一		一	一	五	二		
五	四	二	四	二	一九	四	四	二	一	四	一五	三八	六	八	八
					三						一	一			
三	二	四	五	二	二五	九	五	五	三	一三	一七	五八	一九	一四	一四
一	三〇	七	九	四	五三	一八	一四	一〇	五	二四	四〇	一三五	三三	二九	二九
					三						一	一			

警察ノ事務タル強竊盜ヲ捕縛シ又ハ被告人ヲ逮捕スル等ノ事ヨリ諸般ノ禍害ヲ豫防スルニ至ルマテ全國各地方互ニ氣脈ヲ通スルニアラサレハ其ノ効ナキヲ以テ中央ノ地ニ位スル警視廳ノ如キハ素ヨリ府下ノ住民ヲ取締ルノミヲ以テ足レリトナスヘカラス特ニ政治上ニ關スル事件ノ如キハ各地方ニ連絡ヲ通スルモノニシテ事ノ東京ニ發スルモノハ直ニ各地方ニ波及シ地方ニ起リタルモノハ又直ニ東京ニ影響スルヲ以テ高等警察ノ如キハ其ノ用意最モ緻密ナラサルヘカラス若シ一タヒ其ノ施行ノ方法ヲ失セシニハ禍害忽チ全國ニ瀰蔓スルニ至ルヘシ豈慎マサルヘケンヤ既ニ警察ハ氣脈ヲ各地ニ通セサルヘカラスモノトセハ此ノ警察線ヲ中部ニ綜合統括スル所ナカルヘカラ

スサレハ特ニ高等警察ニ關シ各地方ニ於テ要スル百般ノ手續ハ殆ト皆警視廳之ヲ爲サ、ルヘカラス警視廳ノ事務タル豈僅ニ隣接セル二三ノ府縣ト交渉ヲ有スル各地方ノ警察ト同一ノ視點ニ置クヲ得ンヤ

且東京ノ市タル面積九方里人口凡百二十八万三千六百九ニシテ一方里内ニ住スルモノ大約十四万二千六百二十三人強ノ割合ナリ單ニ市ノ住民ノミヲ以テスルモ數縣ヲ合シタル程ノ多キアリ人多ケレハ其ノ間ニ生スル事故ノ多カルヘキハ自然ノ勢ナリ加フルニ他府縣人トノ交渉アリ之カ保護取締ヲ與ヘテ以テ其ノ性命財産ヲ安全ナラシムルコト素ヨリ容易ノ事ニアラサルナリ特ニ彼ノ東京ノ名物ト稱セラル、火災ハ固有ノ取締ヲ要スルモノニシテ此

ノ取締ニシテ其ノ宜キヲ得サランカ一炬ニシテ忽チ數百  
 万ノ財産ヲ烏有ニ歸セシムルニ至ラン特ニ消防官吏ヲ置  
 キ特別ナル消防組ヲ組織シタル所以亦之カ爲メナリ  
 論者曰ク大阪スラ警察本部ヲ置キテ之ヲ府知事ノ管理ニ  
 屬セシムルニアラスヤ東京豈獨リ獨立ノ警察廳ヲ置クノ  
 必要アラシヤ况ヤ犯罪事件ノ多少東京ト大阪ト左程ノ差  
 異ナキニ於テオヤト予輩ハ論者ニ答フルノ前ニ於テ先ッ三  
 府ノ警察事件ヲ示サントス

二十一年ノ調査

地方	人員	警察官	巡査	巡査一人ニ付人口	警察官一人ニ付巡査
東京	五三九	三、一九一	四一八	五、九二〇強	
大阪	一五四	一、四一五	八一七	九、一八八強	

東京	九二	一、〇五九	七六〇	一一、五一〇強
----	----	-------	-----	---------

地方	事件	盜	難	火災	度數	巡査一人ニ付盜難
東京	一六、一三二				一八一	五、〇五五強
大阪	一四、一一一				一一九	九、九七三強
京都	一〇、一八九				一六一	九、六二一強

地方	事件	賭	博	新ニ監視執行員	巡査一人ニ付監視人
東京	一、三八〇			一、八二五	〇、五七一強
大阪	六五九			二、六二七	一、八五六強
京都	六六九			一、一五七	一、〇九二強

論者此ノ統計表ニ就テ先ッ警察官ノ多少ヲ比較セヨ次ニ巡

○附録 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

查ノ多少ヲ比較セヨ次ニ巡查一人ニテ取締ルヘキ人口ノ割合ヲ比較セヨ而シテ犯罪事件ヲ比較セヨ取締ル人多クシテ取締ラル、人少ケレハ隨テ犯罪少カラサルヘカラスサレハ東京ニ於ケル犯罪ハ大阪及京都ニ於ケルヨリ大ニ少カルヘキ理ナリ然ルニ左程ノ差異ナク而カモ少シク多キハ即東京ニ於ケル犯罪ノ他二府ニ比較シテ大ニ多キ割合ナリ今若シ東京ニ於テ警察官ヲ減シ巡查ヲ減シテ大阪若クハ京都ト同等ノ人員トナサハ犯罪ノ數今日ニ數倍スルニ至ルヘシ警察權ト犯罪力トノ權衡ヲ察セス唯犯罪ノ數ヲ見テ其ノ差異ナキヲ論スルハ皮相ノ見ナラスヤ論者ノ論ハ正ニ東京ニ警視廳ヲ要スルコトヲ其ノ裏面ニ於テ承認セルモノト謂フヘシ論者ヨ犯罪ノ少キハ取締ノ能ク

行届キ居ル證據タルヲ知ルヘシ禍ヲ未然ニ防クハ警察ノ本義タルヲ知ルヘシ  
 要スルニ社會ノ事情ハ東京警察事務ヲシテ他ノ府縣ト同様ナラシムルヲ許サ、ルナリ然ルニ今警視廳ヲ廢シテ其ノ事務ヲ府廳ニ委ヌルト謂フカ如キハ事情ニ潤ナルノ迂論ナリ東京ノ警察事務一步モ之ヲ退クヘカラス取締ハ十分綿密ニセサルヘカラス少クトモ今日ノ程度ヨリ緩ムヘカラサルモノトセハ之ヲ府廳ニ移シタリトテ警視廳カ使用スル丈ケノ吏員ハ必之ヲ要スヘシ果シテ然ラハ廢廳移務亦何ノ利スル所ノ或ハ府廳ニ合スレハ多少吏員ヲ減少スルヲ得ヘシト曰ハンカ是或ハ然ラン然レトモ警視廳ヲ獨立セシムヘカラストノ理由トハナル能ハサルナリ警察

○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

ノ事務タル行政ノ事務タルニハ相違ナシト雖一種特異ニシテ府廳ノ事務ト同シカラサレハ府廳ニ合シタリトテ府吏ハ警視警部ノ任ヲ兼ヌルコトヲ得ス警視警部亦郡長屬吏トナスヘカラスサレハ吏員ヲ減スルトスルモ警官ニ於テ幾何府吏ニ於テ若干ト双方各個ニ之ヲ減セサルヘカラス此ノ如クシハ警視廳ニシテ獨立シアルモ能ク其ノ冗員ヲ淘汰シ得ヘキナリ必シモ合廳ノ後ヲ待タサルナリヨシヤ爲メニ小使ヲ減シ給仕ヲ減シタリトテ得ル所幾何モアルヘカラス素ヨリ合廳ヨリ生スル警察事務ノ滯滞若クハ取締ノ遲緩ヲ償ヒ得ヘキニアラサルナリ

論者或ハ曰ク警視總監ノ任ヲ知事ニ兼テシムヘシト是總監ノ何物タル知事ノ何物タルヲ知ラサルノ言ナリ閑職或

ハ之ヲ兼テ得ヘシ然レトモ府知事ノ管スル所今日ニアリテモ行政ノ事務繁劇ニシテ他府縣ノ比ニアラス然ルニ之ニ兼テシムルニ晝夜ヲ分タサル警察事務ヲ以テセントス何ヨ事理ニ暗キノ甚シキヤ論者又曰ク府廳ニ合スルモ知事ハ只之ヲ兼統スルノミニシテ部下ニ專務ノ警官ヲ置カハ可ナラスヤト嗚呼又何ヨ警察事務ニ不明ナルノ甚シキヤ彼ノ通常法規ヲ執行スルカ如キハ或ハ可ナランナレトモ高等警察ノ如キハ如何ニスヘキヨ假令ヘ專務ノ警官アリトスルモ知事ニ隸屬スル以上ハ是受命ノ吏ナリ其ノ事ヲ處スル一之ヲ知事ニ謀リ之カ命ニ從ハサルヘカラス事ヲ各省大臣ニ通スルカ如キ亦知事ヲ經サルヘカラス然ルトキハ知事亦事ヲ處スルナリ而シテ知事ニハ又知事ノ



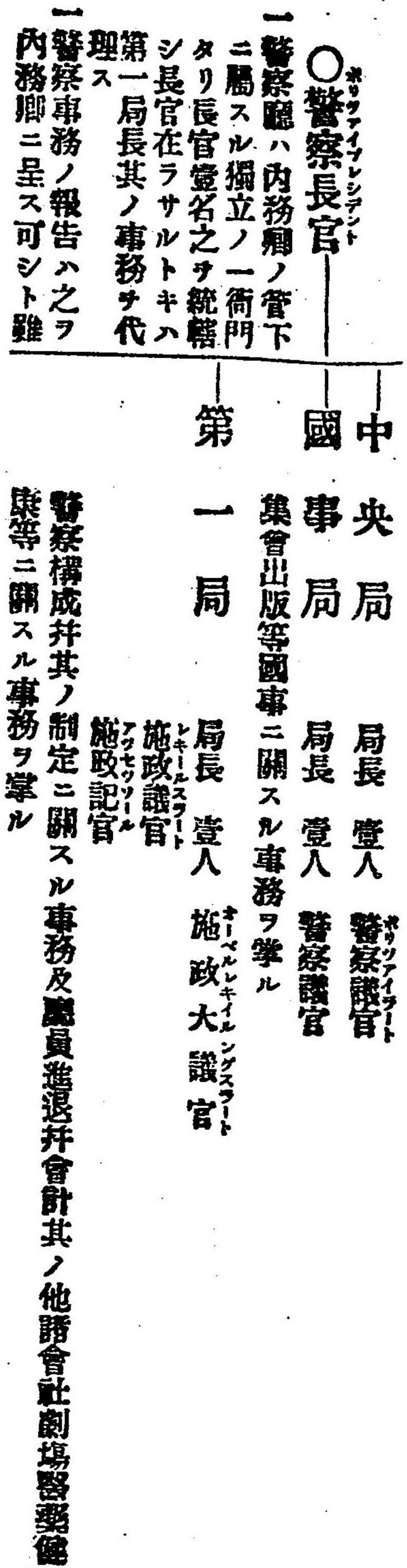
任アリ豈能ク其ノ處務ニ周到迅速ナルヲ得ンヤ論者知ラ  
 スヤ獨及壞ノ警視總監ハ直接ニ皇帝ニ上奏シ之カ諮問ニ  
 對フルヲ得ルノ特權ヲ有シ居ルコトヲ論者或ハ曰ハン特  
 別市制ハ既ニ議院ニ於テ動議ノ提出サレタル如ク之ヲ廢  
 止スルニ至ラハ府廳ノ行政事務非常ニ減少スヘシ然ルト  
 キハ知事ニ於テ總監ノ任ヲ兼テ得サルコトナカルヘシト  
 然レトモ特別市制ノ果シテ廢止トナルヤ否ヤハ未定ノ問  
 題ニ屬シ特ニ首府ニ特別市制ヲ布クモノ獨リ我國ノミニ  
 アラス歐洲ノ諸國皆然ルヲ見レハ特制ヲ布ク亦止ムヲ得  
 サルノ事情アルヘシ且論者ノ此ノ說ハ偶マ以テ今日ニ於  
 テハ到底知事ヲシテ總監ヲ兼テシムルノ難キヲ明證スル  
 モノニアラスヤ

予輩ハ強チ警視廳ヲ廢スルヲ嫌フモノニアラス之ヲ府廳  
 ニ合シテ以テ一方ニハ政費ヲ節減スルヲ得一方ニハ警察  
 事務周到緻密ニ取締嚴重迅速ニ出來得ンニハ之ニ越シテ  
 ルコトナシト雖唯其ノ然ラサルヲ憂フルモノナリ政費ノ  
 節減ヲ以テ國家ノ擾亂ヲ買フカ如キハ決シテ策ノ執ルハ  
 キモノニアラサルナリ以上予輩カ講究シタル所ニ由レハ  
 警視廳獨立實ニ必要ナルヲ見ルナリ  
 警視廳獨立ノ必要ハ既ニ述フルカ如シ而シテ此ノ必要ハ  
 歐洲ノ諸大國夙ニ認ムル所ニシテ巴里ノ如キハ既ニ千七  
 百八十九年ニ伯林ハ千八百二十二年ニ警視廳ヲ置キタリ  
 英國ノ如キモ千八百二十九年ジヨルヲ四世ノ朝ロベルト  
 ピールノ宰相タル時ニ警視廳ヲ創設セリ而シテ現今ノ警

視廳舍執務上不便ナリトノ故ヲ以テアイムス河畔ニ新築セントス其ノ敷地ハ七万六呎ニシテ建築費ハ二十萬磅即吾カ百十萬圓ナリト云フ之ヲ我國ノ今日警視廳ヲ廢セントスルノ議ニ比スレハ實ニ東西ノ差アリト謂フヘシ又佛國ニ於テハ巴里府會ハ警視廳ヲ廢シテ其ノ事務ヲ塞納州ノ知事ニ管掌セシメントノ意ニテ警視總監ヨリ警察費トシテ府會ニ要求スル豫算案ヲ殆ト毎年(消防隊ニ關スル費用ヲ除クノ外)否決スレトモ政府ハ常ニ之ヲ拒ミテ前年度ノ豫算ヲ執行セリ佛國ノ内閣ハ更迭頻繁ニシテ其ノ基礎堅カラサルコト世人ノ知ル如クナルニモ拘ラス政府ハ議員政黨員ヲ以テ組織セラレ居ルニモ拘ラス斷然府民ノ輿論ヲ斥ケテ之ヲ採ラサルコト斯ノ如クナルハ何ソヤ是國

家ノ安危ヲ思フノ故ニアラスヤ之ヲ我國ノ政費節減民力休養ノ口實ヲ藉リテ蝸牛角上ニ黨派ノ勝敗ヲ争ヒ國家ノ大計ヲ顧ミサル群小政治家輩ニ比スレハ月籠ノ差アリト謂フヘシ彼ヲ想ヒ此ヲ思ヘハ予輩實ニ慨嘆ニ堪エサルナリ予輩今此ノ論ヲ結フニ當リ歐洲諸大國ノ警視廳制度ヲ左ニ錄シ以テ讀者ノ參考ニ供ス

### 獨逸警察廳構成概略



時々之ヲ内奏シ帝モ亦  
 儀禮シテ親ヲ臨ス朝  
 儀盛禮外國大賓ノ饗宴  
 等ニ多クハ陪伴ス皆舊  
 來ノ慣習ニ從フ也  
 一警察規則ヲ管下ニ布令  
 スルノ權アリ千八百五  
 十年三月十一日ノ法律  
 ナリテ其ノ根柢ヲ定ム  
 一警察規則ヲ新布若クハ  
 改正スルノ前伯林府長  
 ニ知會スヘシト雖モ其  
 許諾ヲ得ルヲ要セス且  
 其ノ可否ヲ府會ニ執ル  
 ト否トノ如キハ府長ノ  
 意見ニ任シ警察長官ノ  
 關スル所ニアラス  
 一警察長官ハ伯林府會ニ  
 關與スルコトナシ警察  
 民費課賦ノ如キハ之ヲ  
 府長ニ照會ス警察廳ハ  
 非常事變ニ際スト雖兵  
 事ニ干渉スルコト無シ  
 一巡警官吏常ニ帶劍シ且  
 短銃ヲ貯フルアルノミ  
 一警察廳歳費  
 七百〇七万九千九百マ  
 ルク五十

- 第二局 局長 壹人 施政議官  
 旅店酒肆遊藝觀物場奴婢雇人續免許市街河流等ニ關スル事務ヲ掌ル  
 第三局 局長 壹人 施政議官  
 ハウステンゲル  
 建築検査役  
 家屋并製造所等建築ノ検査及之ヲ允准スルノ事務ヲ掌ル  
 第四局 局長 壹人 施政議官  
 安寧掛 警察議官 壹人  
 刑事掛 同 壹人  
 按使 拾七人  
 風俗掛 警察議官 壹人  
 死体検査掛 同 壹人  
 罪犯ノ探偵捕縛囚人護送并風俗孤兒等ニ關スル事務ヲ掌ル  
 第五局 局長 壹人 警察議官  
 戶籍掛 記官 壹人  
 旅券郷里證書并外國人ニ關スル諸般ノ事務拾遺物品等ノ事ヲ掌ル  
 第六局 局長 警察議官  
 警察裁判官ニ屬スル罪犯ヲ審判スル等ノ事ヲ掌ル  
 衛生警察掛 健康議官 壹人  
 總區衛生上ノ事ヲ監ス  
 同 拾人  
 每區壹人ヲ以テ衛生上ノ事ヲ監ス  
 六人  
 内 貳人 裁判醫

内 國費六百四十万〇八  
 千五百四十四マルク  
 民費六拾七万〇五百  
 五拾七マルク五十  
 一管内  
 幅員 九拾七万四千五  
 百七拾三人  
 人口 九拾七万四千五  
 百七拾三人  
 警察長官年俸  
 壹万四千四百マルク  
 馬車料 四千八百マルク  
 手當 三千六百マルク  
 一長官并司令官ハ勅命ヲ  
 以テ任セラレ記官少尉  
 以上内務卿ヨリ任命セ  
 ラレ以下長官ヨリ任命  
 セラル  
 ライトノ三稱號ハ皇帝  
 ヨリ授ケラレ「レキ  
 ルングス、アソセツス  
 ソール」ノ稱號ハ内務  
 卿ヨリ命セラレ

消防司 長 壹人 施政議官  
 監督 壹人  
 事務長 壹人  
 士官 各壹人  
 本營壹ヶ所分管四ヶ所見張所拾貳ヶ所警察署并消防本分營ヲ除クノ外市中報  
 火用電信機ヲ設クル十六ヶ所

巡查本部	司令官	大尉 壹人	少尉 壹人	巡查部長	巡查
騎馬隊		大尉 壹人	同	同	同
豫備隊		同	同	同	同
點燈事務		大尉 壹人	同	同	同
慈惠掛		同	同	同	同
市場掛		同	同	同	同
馬車掛		同	同	同	同
水上掛		同	同	同	同

○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

方面掛	同 六人					
方面屯所			少尉拾二人	同	同	同
五十七分署			同 五十七人	同	同	同
大同			同 六人	同	同	同
人員合計	壹人	拾壹人	九拾三人	三百拾八人	貳千九百〇拾九人	
夜番			監督	番人長	番人	

### 澳國維也納警察廳構成概略

○警察長官 勅任  
 同副長官 勅任  
 警察廳ハ内務卿并州長ノ管下ニ屬シ獨立ノ一衙門タリ長官之ヲ統轄シ副長官之ヲ輔ク  
 警察長官同副長官第一局長第二局長ハ帝命ヲ以テ之ヲ任ス以下ノ官吏内務卿之ヲ任命ス  
 一澳國內五都會ノ地ニ帝命警察廳ヲ置ク維也納

○警察長官 勅任  
 同副長官 勅任  
 警察廳ハ内務卿并州長ノ管下ニ屬シ獨立ノ一衙門タリ長官之ヲ統轄シ副長官之ヲ輔ク  
 警察長官同副長官第一局長第二局長ハ帝命ヲ以テ之ヲ任ス以下ノ官吏内務卿之ヲ任命ス  
 一澳國內五都會ノ地ニ帝命警察廳ヲ置ク維也納

第一局  
 局長 壹人  
 課長 三人  
 掛長 二人

第二局  
 局長 壹人  
 課長 三人  
 掛長 二人

第三局  
 局長 壹人  
 課長 三人  
 掛長 二人

警察使 三人  
 屬吏 二十一人  
 局長 壹人  
 課長 三人  
 大警察使 壹人  
 警察使 六人  
 全見習 八人  
 屬吏 八人  
 旅舎取調掛 拾人  
 拘留所長 三人  
 全筆生 壹人  
 看守 九十八人

司法警察一切ノ事務違警罪第二告ノ下開府民追放拘留所等ノ事ヲ掌ル  
 區裁判所檢事ノ職ヲ行フ

第三局  
 局長 壹人  
 課長 三人  
 大警察使 壹人  
 警察使 六人  
 全見習 八人  
 屬吏 八人  
 旅舎取調掛 拾人  
 拘留所長 三人  
 全筆生 壹人  
 看守 九十八人

記錄局  
 局長 壹人  
 全副 壹人

國事警察出版集會演劇等ノ事ヲ掌ル

府其一ニ居ル經費百分ノ十五乃至三十三ヲ以テ民費トス  
 國費 六拾萬フ  
 民費 卅萬  
 維也納府  
 職員  
 人口 八拾三萬三千  
 戶數 八萬五千五百人

一警察長官毎日内務卿ノ許ニ詣リ見ルヲ例トス時トシテ帝モ亦召見諮詢スル所アリ  
 一警察長官ハ其名ヲ以テ管下ニ警察規則ヲ發布スルノ權ヲ有ス  
 一警察廳ハ非常ノ事變ニ際スト推兵事ニ干渉スルコト無シ一揆暴動ノ如キ兵器ヲ執リテ鎮壓ヲ要スルモノハ之ヲ軍衙ノ職ニ屬ス

○附錄 警察廳ノ存廢ニ關スル意見

本廳諸記録ノ儲蔵文移簿寫等ノ事ヲ掌ル

掛長 二人  
 屬吏 拾二人  
 總監 壹人  
 大監督 四一人  
 方面一等監督 拾一人  
 同二等監督 拾二人  
 會計官 壹人  
 一等監吏 百一人  
 二等監吏 百一人  
 巡查 貳千百廿人

方面監督并監吏巡查ヲ以テ各警察使局ニ配置ス

夜番長 壹人  
 監吏 貳人  
 同補 八人  
 夜番員 百〇六人  
 醫員 九人  
 全外科 九人  
 全衛生掛 貳拾五人  
 産婆 三人

### 警察使局

維也納府内ヲ十七區、シ各一警察使局ヲ置キ局長壹名(警察廳官又ハ大警察使ヲ以テ之ニ充ツ)警察使全副又ハ見習筆生等若干名ヲ以テ局員トス警察使ハ該區内ニ於テ一切ノ警察ヲ執行シ警察違犯ノ罪ヲ處斷ス

## 龍動首府警察廳構成概略

○總 監 勅任  
 年俸千五百封度海陸軍省ヨリ手當三百封度官宅料三百封度

庶務課 課長檢官 同 年俸千貳百封度  
 往復課 同 同上  
 會計局 局長 同  
 探偵局 局長 壹人 同  
 監督 同 三百五拾封度ヨリ毎年拾封度ヲ増加シ四百五拾封度ニ至ル

副總監勅任 貳人 年俸八百封度海陸軍省ヨリ手當百五拾封度官宅料三百封度  
 一警察廳ハ内務卿ノ管下ニ屬シ獨立ノ一衙門タリ總監之ヲ統轄シ副總監補翼シ總監事故アレハ副總監其ノ事務ヲ代理ス  
 本廳ハ龍動府内チヤリククロフスニ設ク、ミウドルセツキス全部并ケントソルレ、ハトホルドシア及本廳所在ノ地ヨリ直線十五英里以内ノ地ヲ管轄ス

勘査掛 會計檢査ノ事ヲ掌ル 同書記 同 百四封度  
 營繕掛 同 同上  
 馬車掛 掛長檢官  
 遺失物掛 同上

○附錄 警察廳ノ存廢ニ關スル意見

(編制本部ハ管轄ヲ屬ニスルヲ以テ除ク)  
 一歳入百貳拾五萬千四百五拾貳封度拾壹志拾壹片  
 内貳萬四千三百封度  
 總監副總監會計官  
 給料并アームス區  
 警察及騎馬巡行費  
 一四拾壹萬八千七百七拾五封度五志四片  
 但家稅封度三付四片ヲ分付ス千八百七十八年家稅貳千五百拾貳萬六千五百拾六封度ヲ以テ斯ノ如シ  
 以上國費  
 一五萬六千六百拾七封度壹片  
 千八百七十八年四月一日前賦課民費繰越高  
 一四拾八萬千九百六拾九封度六志壹片  
 千八百七拾九年三月三十一日迄前周

年民費課出高  
 一拾七萬三千九百七拾九封度拾九志五片  
 特別勤務其ノ他雜收納高  
 一歳出百拾壹萬八千四百拾六封度八志  
 費用  
 拾三萬三千〇三拾六封度三志拾壹片  
 殘額  
 千八百七十八年四月一日前周年ノ調査  
 一管内面積  
 六百八拾八英里三十分  
 全人口  
 四百五拾三萬四千〇四拾  
 千八百七十八年調  
 一警察官職務權限ハ總テ議院ノ決議ニ依ル内部ノ規則ノ如キハ内務卿ノ准允ヲ得テ施行ス  
 一總監副總監ハ朝議ニ參列シ定時謁見ヲナス自餘ノ官吏ハ此限ニテラ  
 一總監副總監ハ議院ニ着坐スルヲ得ス  
 ○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

贓物掛 同上  
 健康掛 同上  
 貧民止宿所調査掛 同上  
 醫舍掛 同上  
 長 壹人 同六百封度  
 巡查志願人ノ体格検査并巡查ノ病態ヲ診斷ス

官名	方面監督	大區監督	檢査官	下士	巡查	小計
各區派出人員	四 人	貳拾壹人	七百五拾七人	七百八拾七人	八千三百九拾七人	九千七百六拾貳人
陸軍屯營并藏船所派出人員	四 人	四 人	四拾八人	九拾三人	五百七拾八人	七百拾五人
合計	四 人	貳拾五人	七百九拾七人	八百八拾三人	八千九百七拾五人	壹萬〇四百七拾七人
俸給	年俸六百八拾貳度	同三百拾度ヨリ毎度增加シ	毎週貳封度ヨリ毎週貳封度ニ至ル	同封度ヨリ毎度拾八志壹度ニ至ル	同封度ヨリ毎度拾八志壹度ニ至ル	同封度ヨリ毎度拾八志壹度ニ至ル

給 増	豫備員	島居詰	議院詰
毎週四志	一ヶ年三拾五封度	一ヶ年貳拾貳度ヨリ百四拾封度ニ至ルヲ給ス勞ノ多少ニ從	監督以下ニ衣服及ヒ器具ヲ給付スル各差アリ
同三志	同壹志六片		
一日壹志			

警察	吏員	特別	勤務
帝宮 上院 下院 内務省 驛遞局 印刷局	商務局 專賣免許局 會計検査院 記録局 内地關稅局 警察裁判所	民事裁判所 禁苑 英國博物館 國立博物館 綠林病院 地學博物館 綠林公園	薩摩 關船航海局 海軍病院 綠林病院 西郷橋 商船水夫名簿局

# 佛蘭西巴里警察廳構成概略

二百五十二

## ○警察長官

### 大書記官

- 一 警察廳ハ内務卿ノ管下ニ屬シ獨立ノ一衙門ナリ
- 二 警察長官之ヲ統轄シ大書記官之ヲ輔翼ス
- 三 警察長官在ラサルトキハ大書記官其ノ事務ヲ代理ス
- 四 諸省卿主任ノ警察事務ニ付警察長官ハ直ニ其ノ命令ヲ承ク
- 五 警察民費課出ニ付テハ議案ハ警察長官ヨリ直ニ之ヲ府會ニ下付シ警察主任官議會ニ臨ミ議案ノ説明ヲナス
- 六 警察廳定額民費八十年豫算千八百八拾六万〇六百三拾貳フラン
- 七 内中高國費ヨリ補助探察費六拾万フラン并警察長官大書記官年俸ハ

### 官房

記室	壹人	年俸	六千フラン
房長	壹人	同	壹万貳千フラン
課長	三	同	六千乃至八千フラン
副課長	五	同	四千乃至五千フラン
屬吏	二十五	同	貳千乃至四千四百フラン
大書記官	壹人	同	六千乃至九千フラン
副課長	四	同	四千五百乃至五千五百フラン
副課長	五	同	貳千乃至五千フラン
副課長	四十八	同	一萬四千フラン
副課長	五	同	六千乃至八千フラン
副課長	十四	同	四千五百乃至六千フラン
副課長	三十五	同	貳千乃至四千四百フラン
局長	壹人	同	壹萬四千フラン
課長	八	同	四千五百フラン
副課長	八	同	六千フラン
屬吏	三十一	同	貳千乃至四千フラン

### 第一局

廳員進退并記録簿度會計事務ヲ分テ四課ヲ置ク  
 輕重罪犯ノ探察拿捕及依法監視風俗旅券職工証票囚狀瘋癲藥兒乳母等ニ關スル事務ヲ分テ五課ヲ置ク

### 第二局

食備物價度量衡行航道路馬車火災建築健康等ニ關スル事務ヲ分テ四課ヲ置ク

### 邑警察局

邑長	壹人	同	壹萬四千フラン
同副長	壹人	同	壹萬フラン
事務長	壹人	同	六千フラン
同副	壹人	同	四千五百フラン
屬吏	拾九	同	貳千乃至四千四百フラン
警察使	七十	同	五千乃至八千フラン
書記	七十	同	千八百乃至三千フラン
監吏	百四十	同	千五百乃至千八百フラン
保安士官及監吏巡查ヲ統屬シ府内一般ノ警察ヲ監督ス			
各區警察使	壹人	同	五千乃至八千フラン
每小區警察使壹人書記壹人監吏百四十人ヲ置ク			
巴里府内ニ在ルモノ七十府外ニ屬スルモノ幾何アリヤ			
府外警察使	四	同	貳千七百フラン
警務使	四	同	貳千七百フラン
書記	壹人	同	壹萬貳千フラン
保安士官	壹人	同	貳千五百フラン
大監吏	壹人	同	三千フラン
監吏部長	貳人	同	貳千貳百フラン
同副	四	同	千八百乃至千九百フラン
監吏	三十八	同	千四百乃至千七百フラン
外勤一般ノ監察及廳員ニ關スル爭訟ヲ調査ス			
違警罪裁判所掛	壹人	同	八千フラン
書記	壹人	同	貳千七百フラン

○附錄 警察廳ノ存廢ニ關スル意見

二百五十三

該裁判所檢察監吏ノ職ナ行フ	監吏 貳人	同	千八百フラン
裁判所掛	警察使 壹人	同	千七百フラン
	書記 三人	同	六千乃至八千フラン
檢事ニ隨屬シテ便宜其ノ事務ヲ處理ス			貳千フラン
相場會所掛	警察使 壹人	同	八千フラン
	書記 壹人	同	三千フラン
該會所内外ノ秩序ヲ保守シ及ヒ該業ニ關スル法令規則ノ執行ヲ監視ス			
金銀請合監察掛 警察使	六人		貳千四百フラン
金銀器具製造所并商店ニ監視スル調査ニ伴行スルノ職ニ任ス			
以上警察使ニ屬スベキ書記補二十一人ヲ置キ便宜之ヲ使用ス			
相場會所掛	呼上ケ人 壹人	同	千五百フラン
大小市場掛	監吏長 壹人	番丁小頭 壹人	八百フラン
	參檢査役 壹人	番丁 六人	六百フラン
	警備掛監吏 壹人	屬吏 五人	貳千四百乃至四千フラン
		監吏 十五人	貳千四百乃至三千フラン
獸肉市場掛	大監吏 壹人	監吏 三人	貳千四百乃至四千フラン
	獸醫 貳人		
卸賣監督掛			

監吏 九人	貳千四百乃至四千フラン	檢査役 二十壹人	千五百乃至貳千四百フラン
獸肉監督掛			
大監吏 壹人	五千フラン	檢査人 壹人	四千フラン
監吏 十八人	貳千四百乃至三千フラン		
行商食物監督掛			
大監吏 壹人	五千フラン	監吏 十八人	貳千乃至三千フラン
水陸運輸掛			
監吏長 壹人	五千フラン	屬吏 三人	千五百乃至貳千フラン
監吏 二十壹人	千五百乃至三千フラン		
焚物掛			
檢査役 貳人	三千貳百フラン	監吏 十四人	千貳百乃至三千フラン
度量衡掛			
警察使 貳人	三千乃至五千フラン		
飲料檢査掛			
審査役 壹人	四千フラン		
公道安寧健康掛			
築造檢査役 壹人	五千フラン	建築師 十人	千八百乃至三千フラン
分等建物掛大監吏 壹人	五千フラン	監吏 壹人	三千フラン
車馬等留置場掛			
檢査役 壹人	四千フラン	監吏長 壹人	貳千四百フラン
評僧人 貳人	千五百乃至貳千フラン	監吏 貳人	千五百フラン
畜獸者 貳人	千五百フラン		
獸類傳染病監督掛			

○附録 警視廳ノ存廢ニ關スル意見



獸醫 三人 三千フラン  
 監吏 三人 貳千四百乃至三千フラン  
 死屍置場掛 壹人 三千三百フラン  
 下役 壹人 千六百フラン  
 書記 壹人 千三百フラン  
 丁 壹人 千三百フラン  
 毒物検査掛 壹人 四千百フラン  
 同副 壹人 三千五百フラン  
 醫員 十四人 貳千乃至三千五百フラン  
 統計掛 壹人 五百フラン  
 公衆救助掛 壹人 千六百フラン  
 守 壹人 千六百フラン  
 飲料會物分析掛 壹人 四千百フラン  
 令密手傳 壹人 千八百フラン  
 以上ノ部掛ハ各主任局ノ差圖ニ從テ其ノ事務ヲ執行ス

六面監督掛 五人 年俸 六千フラン  
 醫局長 壹人 同 三千五百フラン  
 醫員 十二人 同 千九百フラン  
 巡查ノ疾病ヲ診斷シ及巡查志願人ノ体格ヲ検査ス

安寧掛	警察使壹人 年俸 八千フラン	大監吏五人 年俸 二千五百フラン	監吏部長七人 年俸 二千二百フラン	同副 九人 年俸 千八百乃至千九百フラン	監吏 二百八十人 年俸 千四百乃至千七百フラン	人員小計 貳百四十人
罪犯ノ探偵捕縛及裁判宣告ノ執行ニ任ス						

保安士官 壹人	同 壹人	同 壹人	同 三人	同 六十人	六十人
風俗掛 同 四千五百フラン	同 二千八百フラン	同 二千フラン	同 同上	同上	同上
娼妓及密賣淫ニ關スル規則ノ執行ニ任ス					
貸家掛 同上	同 二人	同 二人	同 六人	同 百六十人	百七十四人
旅舎并貸家ニ關スル規則ノ執行ニ任ス					
探索掛 同 六人	同 七人	同 十八人	同 十六人	同 三百〇人	三百四十六人
同 四千乃至六千フラン	同上	同 二千乃至二千五百フラン	同上	同上	同上
公衆ノ利益ニ關スル一般ノ探索ヲナス					
人員合計 九人	拾五人	貳拾人	三拾四人	七百四十八人	八百二十六人

**常役局** 大監吏以下三十人  
 晝夜開局シ罪犯開書証憑文書并捕縛人及瘋癲迷子等ヲ收受スルヲ掌ル  
**大統領邸館附監吏拾貳名** 參觀部  
 大統領保安ノ爲メ諸般ノ探索ヲナスヲ掌ル  
 一別ニ巡查數名ヲ該屯所ヨリ出張セシム  
 一帝國ノ時ニ在テハ大監吏壹名監吏部長一名同副二名監吏廿六名ヲ以テ宮中勤務ニ服セリ  
**軍團參謀附** 監吏若干名  
 軍團參謀官ノ指揮ニ屬シ造幣局等各所配置守兵ノ勤怠ヲ觀察スル等ノ事ニ任ス  
 附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見 二百五十七



一經費  
皆民費

外ニ  
一拾萬フラン  
司法部費  
用トシテ  
政府ヨリ  
補助

一管内人口千八百七  
拾六萬四千五百九十八  
人

消防部

- 司令官 一人
- 士官 一人
- 消防卒 百五拾人
- 一定設局 副警察監督 一人
- 晝夜開局シテ人民ノ訴状ヲ受理シ急變應援等ノ事ヲ掌ル 監吏 四人
- 一路券掛 副警察監督 一人
- 旅會貸家ノ監察其他外國人ニ關スル法律ノ執行ニ任ス 特別巡查 五人
- 一馬車掛 副警察監督 一人
- 運送會社ノ乘合馬車ノ監督ニ任ス 特別巡查 一人
- 一風俗掛 副警察使 一人
- 特別巡查 一人

人員合計	六	八	八	四	五	八	七	八
第六大區	同	同	同	同	同	同	同	同
第五大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第四大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第六大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
人員合計	六	八	八	四	五	八	七	八
第六大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第五大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第四大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第六大區	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

露國聖彼得堡府警察構成概略

一彼得堡府内警察ノ事務  
ハ同府知事之ヲ管掌シ  
別ニ警察廳ノ設ケナシ  
而シテ國事警察ノ如キハ  
内閣第三局長備兵長  
官ノ直管スル所タルヲ  
以テ府廳ノ警察ハ專ラ  
民警ノ休ナ存セリ

- 一相場會社掛 副警察監督 監吏 五人
  - 一公園掛 巡査 監吏 二人
  - 一市場掛 副警察監督 巡査 一人
  - 一邑獄掛 監吏 二人
  - 一碇泊場掛 巡査 四人
- 港長ニ附屬シ港津警察ノ執行ニ任ス

- 一應中會議 議長 知事 副議長 副知事 議員 官房長 同副議長 司法委員 一名 巡察使 一名
- 一廳中事務ノ改革ヲ議ス 議長 知事 副議長 副知事 議員 官房長 同副議長 司法委員 一名 巡察使 一名
- 一健康會議 議長 第五局長 議員 警察醫長 第四局長

○附錄 警視廳ノ存廢ニ關スル意見

府内醫業者中諸科ノ俊秀ナル者ニ就キ知事之ヲ選  
舉ス

○知事 勅任  
副知事 勅任

健康上ニ關スル事ヲ議ス  
但本會ニ於テ決定施行スル所アルハ臨時委員ヲ置キ之ヲ掌ラシム  
議長以下廳中會議員ニ同シ彼得堡府管轄裁判所檢事一人治安  
裁判官長府會所長ヲ加ヘテ定員トス

中央局 局長 一人  
一般ノ市政并廳員進退會計國庫秘密旅券兵器賣買免許發狂人貧窮人ノ認定等ノ  
事務ヲ分テ十課ヲ置ク

第一局 罪犯探索

第二局 外國人旅券

第三局 府民ノ住所ニ關スル事務

第四局 徽毒傳染取締

第五局 衛生ニ關スル事務

第六局 戶口ノ調査

外交委員 六人

彼得堡府  
幅員  
人口  
戶數  
府廳經費

巡察使 三人

監 吏 三人

警察使 局

全府ヲ三分シテ各其一部ヲ擔當シ馬上巡邏道路ノ不潔巡查ノ勤務警察吏局會計  
ヲ監督スル等ヲ掌ル

警察使 七等官

同 補 助 一人 若クハ二人

同 旅 券 取 扱 役 一人

同 書 記 同 同

同 警察使補助見習 定員ナシ

同 監 吏 同五人 若クハ六人

同 巡 査 同三十人 乃至 六十人  
(總員千五百人)

消防總長 勅任

全府ヲ三十八區トシ各區警察使局ヲ置キ該區内一切ノ警察ヲ執行ス  
府下消防區ヲ十四トシ每區一屯所ヲ置キ消防隊七十人機械車拾輛汽機車一輛馬  
三十頭ヲ備フ

監 獄

獄 長 一人

一等副 長 一人

二等副 長 一人

女 監 吏 一人

會 計 役 同

同 副 同

同 書 記 同

○附錄 醫局廢止ノ存廢ニ關スル意見

唱歌師	同
一等番人	十人
二等番人	五十四人
女一等番人	三人
同二等番人	十二人

以上陳述スルカ如ク予輩ハ警視廳存置ノ必要ニシテ決シテ之ヲ廢止スヘカラサルヲ知ルヘシ然レトモ又今日ノ警視廳ヲ以テ其ノ組織完全ニシテ執務亦間然スル所ナレトハ謂ハス必大ニ釐革改良ヲ加フヘキモノアラソコトヲ信スルモノナリ現今ノ官制ヲ見ルニ如何ニモ入り組ミテ或ハ爲メニ事務ノ澁滯ヲ來スノ恐レナキカト疑ハル、點ナキニアラスサレハ局課或ハ部ノ如キモノ便宜ニ應シテ之カ廢合ヲ行ヒ繁雜ナル組織ヲ改メテ簡易ノモノトセハ事務ノ涉取ルコト或ハ今日ニ優ルコトアルヘシ又今日

ト異ルコトナシトスルモ其ノ廢合ヲ行ヒタル爲メ沙汰スヘキノ吏員ヲ生シテ之ヲ沙汰スルトセハ隨テ幾分カ經費ヲ減シ得ヘシ是一舉兩得ノ計ニアラスヤヨシ局課ノ廢合ヲ行フヘカラストスルモ其ノ吏員タルモノ必シモ多額ノ俸給ヲ與ヘサルヘカラサル高等ノモノタルヲ要セサルヘシ局長課長ヨリ遞次官等ノ卑キモノヲ採用セハ其ノ俸給ノ點ニ於テ亦經費ニ幾分ノ節減ヲ見ルニ至ルヘシ又警視廳ノ事務ニシテ往々府廳ト交渉ヲ有スルモノアリ是固ヨリ止ムヲ得サルコトナリト雖而廳ノ處務ニ敏捷ナラサル人民ヲシテ一方ナラヌ迷惑ヲ蒙ラシムルコトアリ嘗テ某家ニテ其ノ門前ニ三本ノ樹ヲ植ユルカ爲メ警視廳ト府廳トヘ足ヲ運フコト都合十五回ナリシ由日外ノ新聞ニモ見ヘタル

○附錄 警視廳ノ存置ニ關スル意見

カ成程公道ニ樹ヲ植ユル側ヨリシテハ府廳之ニ關係シ道  
 路取締ノ側ヨリシテハ警視廳之ニ關係セサルヘカラスト  
 雖何レニシテモ十五回足ヲ運フニ至テハ驚キ入りタル次  
 第ト謂フヘシ此邊何トカ甘キ便宜法ヲ立テ度キモノナリ  
 警視廳ニ限リタルニハアラテト一體官吏ノ人民ニ接スル  
 ヤ横柄ニシテ親切ナラス特ニ警察官巡查ノ如キハ直接ニ  
 人民ト交渉スルモノ故成ルヘク親切ニ威權カマシキ色ナ  
 ク取扱フコト亦必要ナリ尤モ東京ニ於テハ即警視廳所屬  
 ノ警官及巡查ハ之ヲ地方ニ於ケルモノニ比セハ大ニ親切  
 ノ側ニ立ツト雖然モ尙「ソラ御巡リサンカ來タヨ」ト云ヘハ  
 乳兒モ其ノ泣聲ヲ止ムルヲ見レハ未タ人ニ親愛セラレス  
 シテ却テ其ノ恐ル、所トナリ居ルヲ証スヘシ勿論犯人ヲ

捕ヘ狂人ヲ扱フトキノ如キハ親切モ何モ入ラサル次第ナ  
 レトモ平生ハ成ルヘク温顔人民ニ接スヘキナリ或時ハ菩  
 薩トナリ或時ハ夜叉トナル此ノ二性質ハ實ニ警官及巡查  
 ニ必要ノモノト謂ハサルヘカラス  
 要スルニ組織ノ繁ヲ避ケ簡ニ就キ冗員ヲ汰シ俸給ヲ減シ  
 (但シ薄給ノ官吏ヲ用ヒルヲ謂フ)處務迅速ヲ旨トシナハ三  
 十八万圓ノ經費額中豈五万圓乃至十万圓ノ節減ヲ加フル  
 コト能ハストセシヤ機關ニシテ精良ナラシカ少量ノ石炭  
 能ク之ヲ運轉シ而シテ廣大ナル事業ヲ成シ得ヘシ予輩ハ  
 警視廳ノ精良ナル機關ヲラシコトヲ望ムモノナリ

明治廿四年八月十五日印刷  
同年同月十九日出版

定價金三十五錢

編輯兼發行者

和 田 鍊 太  
東京市麹町區道三町壹番地

編輯兼發行者

平 野 貞 次 郎  
同 神田區南藥物町十四番地寄留

印刷者

佐 藤 鍋 吉  
同 芝區愛宕下町四丁目八番地

發行所

警 察 機 關 社  
同 愛宕下町四丁目八番地

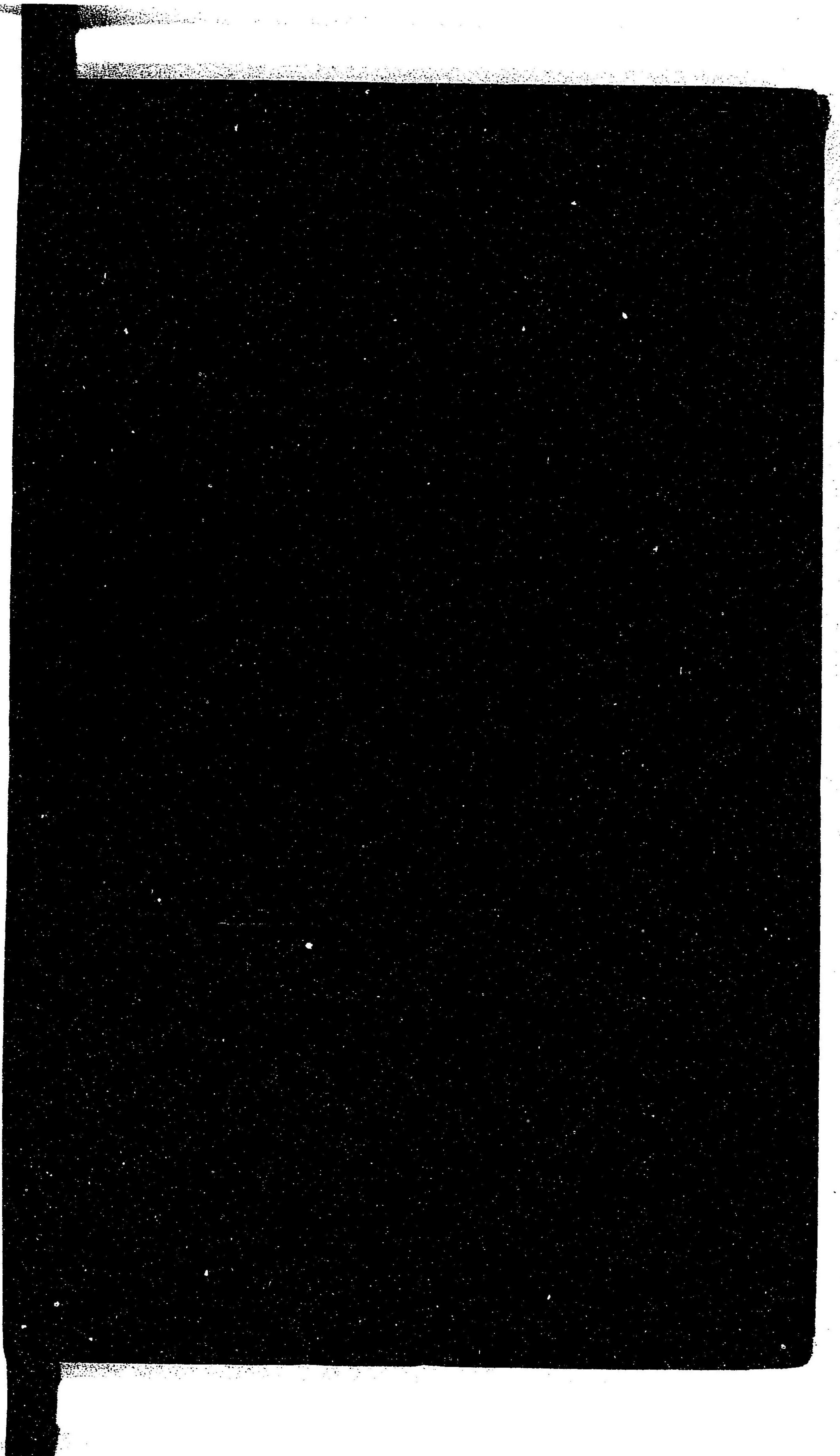
發賣所

共 益 商 社 書 店  
同 京橋區竹川町十三番地





38  
182



38

182

029365-000-8

38-182

奎堂余唾

清浦 奎吾 / 著

M24

BAF-0181



